

# 自由記述からみた「身体障害のある施設利用者の主観的ニーズ」

— 個別のニーズ及びニーズの背景要因 —

“The Subjective Needs of Persons with Physical disabilities in Facilities for the Physically Handicapped” — Analysis of Free Responses in a Questionnaire Survey  
— Individual Needs and Background Factors of Needs

共栄学園短期大学 柊 崎 京 子

Kyoko FUKIZAKI

共栄学園短期大学 人 見 優 子

Yuko HITOMI

東京都清瀬療護園 畠 山 千 春

Chiharu HATAKEYAMA

## 要約

本研究は、「身体障害のある施設利用者の生活ニーズ」を把握するために実施した質問紙調査（先行研究）における「自由記述回答」を分析し、統計的データのみでは把握することのできない個別的なニーズや、主観的ニーズの背景要因について把握することを目的とした。

自由記述を45サブグループ別に整理した結果、ニーズは一人ひとり個別性があるとともに、施設利用者のニーズは共通性もあることが示唆された。7領域別に自由記述を分析し、以下の結論を得た。(1) 主観的ニーズは、本人要因及び本人以外の要因により発生するとともに、同要因の影響を受けて判断・表出されることが示唆された。(2) 本人以外及び本人と環境との相互作用を含む要因は、①他利用者との関係性や、職員の支援体制及び職員との関係性を含む人的環境、②施設の物理的環境や物理的な面での構造的問題、③施設の方針や規則、支援体制などの施設内における内的体制、④施設の地域環境や地域資源、⑤福祉制度である。(3) 自由記述に記された要望・意見は、支援の方向性を検討する上で示唆深い。

**キーワード：**主観的ニーズ 生活ニーズ 身体障害者 施設利用者 身体障害者療護施設

## 目次

- I はじめに
- II 先行研究の概要
- III 研究目的
- IV 研究方法
- V 結果および考察
- VI 結論
- VII 研究の限界と今後の課題
- VIII 謝辞

### I はじめに

筆者らは、入所施設を利用している身体障害者の生活ニーズを把握するために、旧法の身体障害者療護施設 250 施設の各施設利用者 3 人を対象に、ニーズ 79 項目より構成した質問紙調査を行った。この結果は、先行研究として「身体障害のある施設利用者の生活ニーズ」にまとめた<sup>注1)</sup>。本研究で主観的ニーズに注目する理由は 2 つある。1 つは、利用者が表明するニーズはサービスの出発点であること。2 つは、利用者と介護者間で、ニーズ認識の不一致やずれのある可能性を否定できないためである。

先行研究では、平均値の高いニーズの特徴から得られた知見や、対象者の属性要因により生活ニーズに差があることについての知見を整理した。しかし、質問項目の妥当性については検証されていないことや質問紙調査による限界などが、今後の課題として残った。そのため、本研究では、調査項目に対し記述された自由記述の結果を分析し、統計的データのみでは把握することのできない個別的なニーズや、主観的ニーズの背景要因について把握することを目的とした。

研究目的及び研究方法の特徴上、まず、自由記述の結果と関連する先行研究の一部を述べ、次に本研究の内容について述べる。

### II 先行研究の概要

本研究に先立ち実施した先行研究の概要は、下記の通りである<sup>注1)</sup>。

旧法の身体障害者療護施設 250 施設の各施設利用者を対象に、自記式質問紙調査を郵送法により実施した（調査期間は 2010 年 7 月 1 日～8 月 10 日）。生活ニーズを問う質問項目の作成にあたっては、「障害者自立支援法対応版・障害者支援施設のケアプラン」で用いられているアセスメント表（全国身体障害者施設協議会編 2008）や、高齢者施設・

障害者施設・救護施設で使用しているアセスメント表を勘案しながら介護福祉士養成教育のために作成されたアセスメント表（柘崎 2010）を参考にしつつ、独自の視点で設定した<sup>注1)</sup>。即ち、①生活面を中心とする7領域の視点からニーズを把握する、②回答がサービス提供の現状に影響を受ける可能性のある項目は除外する（たとえば、入浴回数や食事時間などの具体的事項）などの検討作業を経て設定したものである。質問紙の調査項目は7領域79項目より構成し、調査項目に対し、「かなりあてはまる」（4点）～「全くあてはまらない」（1点）の4件法で回答を求めた。

調査項目の7領域と、それぞれに含まれるニーズの調査項目数は次の通りである。領域「生活基盤」（8項目）、「自分の身体・健康」（9項目）、「日常生活」（24項目）、「コミュニケーションと意思決定」（10項目）、「人・社会との関係」（6項目）、「参加・活動」（12項目）、「希望・要望」（10項目）。

分析方法は、(1) ニーズ79項目の平均値および基本属性を把握した。(2) 対象者の障害は多岐に渡っていたため、回答者の1位「脳性麻痺」と2位「頸髄損傷」を分析対象とし、障害2群間・性別・年齢・入居年数・居室人数についての属性別比較を行った。なお、(2)については、ニーズ79項目をグループ別に編成した45サブグループそれぞれの項目得点の平均値を求め、これを各サブグループの得点とし、分析にはこれを用いた。

本研究の目的と関連する先行研究の結果として、分析(1)の一部より、「回答施設の概要」（表1）、「ニーズ調査回答者の属性」（表2）、「回答者全体のニーズ79項目の記述統計量」（表3）の3つを示す。

表1 回答施設の概要

回答施設の概要		施設数	%	n
施設設立年度	1972-1982年	37	31.6	117
	1983-1997	39	33.3	
	1998-2010	41	35.0	
利用定員 (新体系：施設入所支援) (旧体系：定員)	20-49人	23	19.5	118
	50人	45	38.1	
	51人以上	50	42.4	
施設体系	新体系	71	60.7	117
	旧体系	46	39.3	
		M	SD	
利用者平均年齢	男性	55.3	4.6	116
	女性	55.8	5.5	115
「ニーズ調査」の1施設平均回答者数		2.8	.629	118

注) n = 人数、M = 平均値、SD = 標準偏差

出典：「身体障害のある施設利用者の生活ニーズ」<sup>注1)</sup>

表2 ニーズ調査回答者の属性

回答者全体							障害2グループ					
							脳性麻痺		頸髄損傷			
項目	人数	%	平均値	標準偏差	中央値	範囲/値	人数	人数	%	人数	%	
性別	男性	215	61.4				350	81	61.8	51	86.4	
	女性	135	38.6					50	38.2	8	13.6	
年齢	20-49歳	87	25.4			範囲 64	342	46	39.5	8	13.3	
	50-59歳	109	31.9	55.6	11.0	最小値 20		42	33.3	25	41.7	
	60歳以上	146	42.7			最大値 84		32	27.1	27	45.0	
障害名		人数	%			人数	%	326				
	脳性麻痺	131	40.2	脊髄小脳変性症	5	1.5						
	脊髄性小児麻痺	1	0.3	脳挫傷	4	1.2						
	脊髄損傷(対麻痺)	22	6.7	脳血管障害	29	8.9						
	頸髄損傷(四肢麻痺)	60	18.4	その他の脳神経疾患	11	3.4						
	筋ジストロフィー	13	4.0	関節リウマチ	8	2.5						
	筋萎縮性側索硬化症	1	0.3	その他	41	12.6						
施設 利用年数	0-7年	131	38.5			範囲 36	340	41	32.3	18	31.0	
	8-4年	109	32.1	12.1	8.9	10.0		最小値 0.4	39	30.7	20	34.5
	15年以上	100	29.4					最大値 36	47	37.0	20	34.5
居室人数	1人	161	45.9			範囲 8	351	69	52.7	30	50.0	
	2人	95	27.1	1.8	0.8	2.0		最小値 1	31	23.7	13	21.7
	3人-4人	84	23.9					最大値 9	28	21.4	15	25.0
	5人-9人	11	3.1						3	2.3	2	3.3
質問紙 回答方法	自己記入	97	27.6				352	18	13.7	21	35.0	
	代筆	255	72.4					113	86.3	39	65.0	

出典：「身体障害のある施設利用者の生活ニーズ」<sup>注1)</sup>

表3 「回答者全体」のニーズ79項目の記述統計量

領域	サブグループ	項目	n	M	SD	領域	サブグループ	項目	n	M	SD					
生活基礎	1 居室選択の自由	1 個室か2人部屋など、自分の居室を選択できることは必要	350	3.60	0.75	コミュニケーション	21 コミュニケーション機器	42 コミュニケーションのために、補助具・機器が必要	345	1.63	1.04					
		2 自分の思うように居室の環境を整えられることは必要	353	3.75	0.54			22 パソコン・インターネット	43 電話使用のために、介助や補助具・見守りが必要	341	2.33	1.29				
		3 食べる場所の環境を整えることは必要	351	3.53	0.75				44 パソコン・インターネット使用に、介助や見守り、補助員が必要	44 パソコン・インターネット使用に、介助や見守り、補助員が必要	338	2.48	1.27			
		4 トイレや排泄する環境を整えることは必要	350	3.59	0.75					45 電話を使用したい	45 電話を使用したい	343	3.21	1.10		
		5 睡眠のために環境を整えることは必要	350	3.61	0.72						46 パソコンやインターネットを使用できる環境であることは必要	46 パソコンやインターネットを使用できる環境であることは必要	341	3.05	1.19	
		6 プライバシー保護のために環境や設備を整えることは必要	348	3.60	0.71							47 パソコンやインターネットを使用したい	47 パソコンやインターネットを使用したい	344	2.96	1.26
	7 異性介助を受けないなどの性的プライバシーの保護は必要	350	2.93	1.08	48 相手の言いいたいことを相手に理解してもらおうことは大切		48 相手の言いいたいことを自分が理解できることは大切						339	3.70	0.69	
	8 収入	343	2.67	1.12			49 日常生活で、自分のことは自分で決めたい	49 日常生活で、自分のことは自分で決めたい					349	3.71	0.63	
	自分の身体健康	5 身体・健康の維持改善	9 体やひふの状態を維持・改善することは必要	346				3.56	0.80				25 意思決定	51 どこで生活するか、自分で決めたい	341	3.48
			10 体力や抵抗力を維持・改善することは必要	348				3.61	0.73	26 家族や親戚との交流				52 家族や親戚と交流したい	347	3.35
		6 身体・健康のための運動や訓練	11 歯や入れ歯などを維持・改善することは必要	347				3.50	0.85		27 施設内での交流・活動			53 施設内利用者との交流・活動・活動したい	347	3.11
			12 身体機能の維持や強化のために、機能訓練をしたい	345				3.35	0.92			28 施設外の友人等と交流・活動したい		54 施設外の友人等と交流・活動したい	347	3.13
		7 自分にあつた食事	13 健康のために、体を動かしたい	346	3.45			0.82	29 地域・ボランティアなどの交流					55 ボランティアと交流・活動したい	345	3.03
			14 自分にあつた食事が提供されることは必要	348	3.60		0.70	30 実習生とかかわりたい						56 地域の人と交流・活動したい	343	2.88
		8 医療的ケア	15 通院が必要	348	3.15		1.08						31 日中活動	57 実習生とかかわりたい	343	2.91
			16 特殊な医療処置が必要	332	1.85		1.20			58 施設内の日中活動に参加したい				58 施設内の日中活動に参加したい	346	2.95
9 医療機関選択の自由			17 医療機関選択の自由は必要	349	3.19	1.03	59 施設外の日中活動に参加したい				59 施設外の日中活動に参加したい			343	2.81	1.06
			18 姿勢を保つために、介助や補助具・見守りが必要	349	2.91	1.13					60 お金ももらわなくていいから働きたい	60 お金ももらわなくていいから働きたい		339	1.90	1.05
日常生活	10 起き上がり・移乗	19 起きる・寝がえり・立ち上がり動作に、介助や補助具・見守りが必要	345	3.18	1.11	61 お金をもらわうために働きたい			61 お金をもらわうために働きたい			342		2.76	1.07	
		20 ベッドをいす(車いす)移動に、介助や補助具・見守りが必要	345	3.27	1.14			62 日常生活で、自分の役割をもちたい	62 日常生活で、自分の役割をもちたい			342		2.62	1.24	
	11 屋内・外の移動	21 屋内移動時に、介助や見守りが必要(移動手段は問わない)	348	2.32	1.22				63 日常生活で、趣味や好きなきことをしたい			63 日常生活で、趣味や好きなきことをしたい	345	3.57	0.76	
		22 屋外移動時に、介助や見守りが必要(移動手段は問わない)	347	3.16	1.04					64 旅行をしたい		64 旅行をしたい	344	3.13	1.06	
	12 食事	23 食事や飲み物の準備をしてもらう必要	349	3.65	0.72		65 外出をしたい					65 外出をしたい	347	3.58	0.77	
		24 食事の後始末や下膳をしてもらう必要	345	3.61	0.81						66 何か学ぶことをしたい	66 何か学ぶことをしたい	342	2.89	1.09	
	13 排泄	25 食事を食べるために、介助や見守りが必要	347	2.53	1.28	67 働くために必要な知識、資格をとるために学びたい						67 働くために必要な知識、資格をとるために学びたい	342	2.18	1.14	
		26 汁物・飲み物を飲むために、介助や見守りが必要	346	2.52	1.29			68 自治会や当事者団体の活動をしたい				68 自治会や当事者団体の活動をしたい	336	2.31	1.21	
14 排泄コントロール	27 排泄の準備や後始末のために、介助や見守りが必要	349	3.33	1.06	69 社会に役立つことや社会と関連する活動をしたい				69 社会に役立つことや社会と関連する活動をしたい			337	2.53	1.18		
	28 尿カテーテルやおむつ使用が必要	346	2.37	1.37					70 性的欲求・性生活	70 性的欲求・性生活に対する希望・要望		335	2.14	1.14		
15 衣服の選択	29 服薬や腹圧などによる排泄コントロールが必要	345	2.18	1.27			71 1年以内に実現したいことがある			71 1年以内に実現したいことがある		336	2.47	1.21		
	30 服薬・流腸・摘便などによる排便コントロールが必要	348	2.87	1.23						72 数年で実現したいことがある	72 数年で実現したいことがある	336	2.61	1.20		
16 衣服の着脱	31 衣服を選ぶために、介助や見守りが必要	344	2.57	1.26		73 何か活動するために、職員の見守りが不足している					73 何か活動するために、職員の見守りが不足している	340	2.80	1.13		
	32 衣服の着脱のために、介助や補助具・見守りが必要	346	3.28	1.07				74 職員のかかわり方を改善して欲しい			74 職員のかかわり方を改善して欲しい	344	3.08	0.94		
17 清潔の保持	33 口腔内を清潔にするために、介助や見守りが必要	348	2.66	1.30	75 悩み・不安、今後などを相談できる施設整備が必要						75 悩み・不安、今後などを相談できる施設整備が必要	346	3.43	0.85		
	34 顔をきれいにするために、介助や見守りが必要	347	2.72	1.28					76 地域で生活する障害者の生活が分かる機会が必要		76 地域で生活する障害者の生活が分かる機会が必要	338	2.80	1.15		
18 身だしなみ	35 入浴(体をふく)のために、介助や見守りが必要	350	3.67	0.73			77 将来、このまま施設で生活したい				77 将来、このまま施設で生活したい	348	3.00	1.16		
	36 爪切りや耳掃除のために、介助や見守りが必要	348	3.54	0.88						78 将来、アパルトや一軒家などで生活したい	78 将来、アパルトや一軒家などで生活したい	337	2.05	1.11		
19 洗濯・整理整頓	37 ひげそり・化粧のために、介助や見守りが必要	346	2.79	1.28		79 将来、このまま施設で生活したい					79 将来、このまま施設で生活したい	341	2.09	1.24		
	38 洗濯(洗う・干すなど)のために、介助や見守りが必要	345	3.37	1.05				n = 人数, M = 平均値, SD = 標準偏差			平均値 3.5 以上	平均値 2.3 未満の項目				
	39 身の回りの整理・整頓のために、介助や見守りが必要	349	3.28	0.97												
	40 金銭管理について、介助が必要	349	2.39	1.22												

出典：「身体障害のある施設利用者の生活ニーズ」<sup>8)</sup>

### Ⅲ 研究目的

「身体障害のある施設利用者の生活ニーズ」を把握するために実施した質問紙調査（以下、「先行研究」とする。）における「自由記述回答」を分析し、個別的なニーズや、主観的ニーズの背景要因について把握することを目的とした。

### Ⅳ 研究方法

#### 1. 用語の定義

主観的ニーズ：何らかの必要がある人自身が判定した自分のニーズ。（先行研究における質問紙調査では「自分がとらえるニーズの程度」と表現している。）

#### 2. 研究方法

先行研究で用いた質問紙調査の中で、質問項目として設定したニーズ79項目への「ニーズに対する意見」を記入できる自由記述欄を設定した。先行研究の回答者354人のうち、自由記載のあった202人の自由記述回答を分析対象とした。

分析方法は、第1に、ニーズ79項目ごとに自由記述回答を整理し、「ニーズに対する意見」として記述された内容のみを抽出した。第2に、第1のデータを、ニーズ79項目をグループ別に編成した45サブグループごとに集約し、各グループ内のデータについて、記述内容の類似性や意味に注目し、内容を分類した。第3に、第2の分類内容を反映したネーミングを行い、カテゴリ・サブカテゴリとした。

### Ⅴ 結果および考察

#### 1. 45サブグループにおける「ニーズに対する意見・要望」の自由記述の状況

ニーズ79項目ごとに「ニーズに対する意見」として記述された内容を抽出した結果、1186の記述があった（個別の記述内容は、巻末資料参照。）。全項目において何らかの記述を得られた。

##### 1) 45サブグループの自由記述個数からみた自由記述の状況

「45サブグループの自由記述個数」を、表4に示した。

「自由記述の多い項目」の指標を「記述個数30以上」とし、結果をみたところ、「自由記述の多い項目」は14項目あった（表中に網かけで示した。）。

##### 2) 45サブグループにおける自由記述の分類結果の概要

表5は、45サブグループにおける自由記述の分類内容を反映したネーミングを行い、

カテゴリ別に自由記述個数を整理したものである。例えば、「1. 居室選択の自由」は 10 個のカテゴリ、「9. 医療機関選択の自由」は 2 個のカテゴリに整理できた。

これらから言えることは、1つのサブグループ内における自由記述は、①複数の視点からの記述があった、②カテゴリに整理できる一定のまとまりがあった、ということである。このことは、ニーズは一人ひとり個別性があること、ニーズは施設利用者としての共通性もあることを示唆している。

表4 45サブグループの自由記述個数

領域	No.	サブグループ	記述数		領域	No.	サブグループ	記述数		
生活基盤	1	居室選択の自由	78	254	人・社会との関係	26	家族や親戚との交流	26	121	
	2	住環境	87			27	施設内での交流・活動	19		
	3	プライバシー保護	53			28	施設外での交流・活動	17		
	4	収入	36			29	地域・ボランティアとの交流	35		
5	身体・健康の維持改善	34	30	実習生とかかわる		24				
自分の 身体・健康	6	身体・健康のための運動や訓練	35	132	参加・活動	31	日中活動	38	220	
	7	自分にあった食事	30			32	就労	50		
	8	医療的ケア	17			33	趣味・役割	28		
	9	医療機関選択の自由	16			34	旅行・外出	35		
日常生活	10	起き上がり・移乗	12	155		35	学習	31		206
	11	屋内・外の移動	18			36	自治会・当事者活動	21		
	12	食事	17			37	社会活動	17		
	13	排泄	16		希望・要望	38	性的欲求・性生活	18		
	14	排泄コントロール	13			39	実現したいことがある	64		
	15	衣服の選択	3			40	活動のための介助	15		
	16	衣服の着脱	7			41	職員のかかわり方	27		
	17	清潔の保持	26			42	施設の相談体制	14		
	18	身だしなみ	16		43	地域生活の情報	17			
	19	洗濯・整理整頓	19		44	施設生活の継続	23			
20	金銭管理	8	45	施設以外での生活希望	28					
コミュニケー ションと 意思決定	21	コミュニケーション機器	3	98						
	22	パソコン・インターネット・電話の介助	10							
	23	パソコン・インターネット・電話の使用	49							
	24	言いたいことが伝わる	18							
	25	意思決定	18							
計			1186							

表5 45 サブグループにおける自由記述の分類結果の概要 (カテゴリ別記述個数)

領域「生活基盤」				
サブグループ	カテゴリ	サブカテゴリ	記述数	
1	居室選択の自由	個室希望	個室化希望	13
			複数人部屋による問題	8
		複数人部屋を希望	複数人部屋を希望	8
			個室による問題	8
			構造的な問題	15
			居室選択できない	7
			規則による制限	2
			自分に適した環境整備が必要	5
			整備方法の制限	7
			個室使用に対する満足	2
			現状に妥協し満足	1
			状況にあわせて対応	2
2	住環境	食環境	構造的な問題	13
			自分に適した環境	9
			意思反映	3
		排泄環境	構造的な問題	20
			設備	10
			衛生	4
		睡眠環境	構造的な問題	11
			睡眠の妨げとなる要因	5
		食環境	現状に満足・現状を肯定	5
		排泄環境	現状に満足・現状を肯定	4
		睡眠環境		3
		3	プライバシー保護	プライバシー保護環境
プライバシー保護の徹底	3			
異性介助の改善	13			
女性職員による異性介助がよい	3			
異性介助の現状を肯定	22			
4	収入	利用料が高い	6	
		収入不足	8	
		生活費が足りない	8	
		年金なので	5	
		工夫している	6	
		節約	6	
制度の改善を希望	4			
将来が不安	2			
現状を肯定	5			
領域「自分の身体・健康」				
5	身体・健康の維持改善	職員体制	医療体制が不十分	4
			訓練体制が不十分	5
		歯科受診体制		4
		健康の維持・改善のための方法		6
		健康の維持・改善の気持ち		10
		現状に満足		4
6	身体・健康のための運動や訓練	専門家による機能訓練		6
		機能訓練の回数増		7
		自分に適した方法	回数	4
			方法	2
		今はないが希望する内容		7
		やりたくない		3
やりたくてもできない		6		
7	自分に合った食事	不満がある		20
		選択肢を増やす		8
		現状に満足		1
		現状にあわせて対応		1
8	医療的ケア	通院介助体制	介助体制の強化	7
			体制不要	1
			交通費	2
		施設内の医療体制	医療的ケアの強化	3
			医療的ケアの強化は困難	3
現状に満足		1		
9	医療機関選択の自由	選択できない		12
		現状に満足		4
領域「日常生活」				
サブグループ	カテゴリ	サブカテゴリ	記述数	
10	起き上がり・移乗	移乗のための体制・設備の確保		4
		職員体制、職員の技術の確保		5
		自分で移乗したい		3
11	屋内・外の移動	介助が必要		6
		外出支援が不十分		1
		現状に満足		11
12	食事	介助体制	忙しい	5
			方法に差がある	5
			後始末	1
			時間	1
		ゆっくり食べたい		4
現状を肯定		1		
13	排泄	介助体制		5
		費用		1
		自分の身体		2
		現状に満足		8
14	排泄コントロール	現状に満足		13
15	衣服の選択	適切な衣服選択		3
16	衣服の着脱	適切な衣服交換		5
		自分でやりたい		2
17	清潔の保持	清潔の保持	口腔衛生	1
			洗面	7
			入浴	5
			耳掃除・爪切り	4
		職員体制		4
介助方法		5		
18	身だしなみ	おしゃれ・化粧ができない	化粧	7
			おしゃれ	3
		身だしなみへの配慮		6
19	洗濯・整理整頓	職員が忙しいので頼めない	時間の確保	8
			回数・内容	3
		整理方法		6
		洗濯物の扱い		2
20	金銭管理	施設で管理してほしい		2
		施設管理だが頼めない		2
		自分でできる範囲でやりたい		3
		金銭管理代行費用の廃止		1
領域「コミュニケーションと意思決定」				
21	コミュニケーション機器	コミュニケーション機器		2
		使用方法		1
22	パソコン・インターネット・電話の介助	公衆電話の問題		4
		パソコン使用の問題		6
23	パソコン・インターネット・電話の使用	公衆電話の問題		3
		電話使用希望	携帯電話	2
			シルバークフォン	1
			使用方法	2
		パソコン使用希望	使用したい	7
			使用環境	4
		インターネット使用希望	使用したい理由	5
	使用環境の改善	8		
	費用の問題	1		
現状に満足		13		
必要度が低い		3		
24	とが伝わる	自分の問題		4
		自分と職員双方の問題		4
		職員にお願いしたいこと		7
		満足・現状に妥協し満足		3
25	意思決定	意思決定は大切	自分で決めたい	2
			尊重してほしい	2
		意思決定は難しい	決められない体制がある	5
			1人では無理	3
		どこで生活するか自分で決めたい	実行状況	2
			困難理由	3
現状を肯定		1		

自由記述からみた「身体障害のある施設利用者の主観的ニーズ」

領域「人・社会との関係」				
サブグループ	カテゴリ	サブカテゴリ	記述数	
26	家族や親戚との交流	家族との交流	もっと希望	11
			適度に希望	2
			接し方不明	1
			判断に迷う	1
		友人との交流	1	
		現状に満足	6	
現状に妥協・肯定	4			
27	施設内での交流・活動	施設内利用者との交流希望の状況	相手による	3
			適度な交流	4
			交流したくない	7
		交流を促進する条件	場所・空間	2
			活動内容	2
自分の状況	1			
28	施設外での交流・活動	施設外利用者との交流希望の状況	機会が少ない	5
			交流がない	3
			交流したくない	2
		交流を促進する条件	場所・機会・交通	5
			現状に満足	2
29	地域・ボランティアとの交流	地域との交流希望の状況	機会が少ない	4
			あればほしい	4
			交流したくない	3
			交流できない	1
		地域交流を促進する条件	外的な条件	2
			内的な条件	3
			ボランティアとの交流希望の状況	もっとほしい
交流したくない	4			
ボランティアがいない理由	外的な理由	5		
内的な理由	4			
30	実習生とかかわる	実習生とかかわりたい	18	
		関わりたくない	6	
領域「参加・活動」				
31	日中活動	施設内の日中活動への参加の意思	基本的には参加したい	4
			参加したくない	9
		施設外の日中活動への希望	希望する内容	5
			活動時間	2
			施設外の日中活動	参加したくない
32	就労	施設外の日中活動への希望	希望する内容	12
			活動時間	1
		お金をもらわなくていいから働きたい	働きたい	9
			働くのは考えない	10
お金をもらうために働きたい	働きたい	22		
	働くのは考えない	9		
33	趣味・役割	日常生活で、自分の役割をもちたいかどうか	持ちたい	4
			わからない	2
			持ちたくない	2
		日常生活で、趣味や好きなことをしたいかどうか	現在の役割についての	2
			趣味がある	10
やりたいことがある	4			
34	外出・旅行	旅行したい	困難な状況がある	4
			旅行したい	18
		機会を増やしてほしい	2	
困難な状況がある	15			

サブグループ	カテゴリ	サブカテゴリ	記述数	
35	学習	学びたいことがある	18	
		やってみよう資格がある	1	
		資格取得に対する現状、思い	12	
36	自治会・当事者活動	現在やっている	8	
		現在やっているが、難しい状況がある	6	
		やりたくない	5	
37	社会活動	作りたい	2	
		活動したい（している）	11	
活動できない	6			
領域「希望・要望」				
38	性的欲求・性生活	性的欲求・性生活に対する個別の回答	15	
		答えづらい	3	
39	実現したいことがある	1年以内に実現したいことがある	地域移行	4
			身体的なこと	3
			旅行・外出	7
			趣味・活動	12
			社会的なこと	3
		数年で実現したいことがある	難しい	4
			地域移行	10
			身体的なこと	6
			旅行・外出	3
			趣味・活動	3
社会的なこと	5			
難しい	4			
40	活動のための介助	職員不足の現状がある	7	
		外出介助の支援希望	2	
		当事者活動への支援希望	1	
		制度的改善の希望	3	
現状を肯定	2			
41	職員のかかわり方	職員が忙しい	2	
		仕事への姿勢・態度	言葉遣い	5
			公平性	3
			特定の職員	3
			話を聞いてほしい	2
			態度	2
職員の資質向上を期待	6			
42	施設の相談体制	現状を肯定・現状に妥協	4	
		相談できる施設整備	8	
		相談できない理由がある	3	
		現状を肯定・現状に妥協	3	
43	地域生活の情報	地域生活の情報がほしい	10	
		情報は必要ない	4	
		政策への期待	1	
現在、かかわりがある	2			
44	施設生活の継続希望	施設生活を積極的理由で継続したい	11	
		施設生活を消極的理由で継続したい	9	
		判断が難しい	3	
45	施設以外での生活希望	グループホームかケアホームで生活したい	希望する	5
		希望する	5	
		アバウトや一軒家などで生活したい	希望する	9
		希望する	9	
		判断が難しい	4	
判断が難しい	5			

2. 自由記述からみる個別のニーズ及びニーズの背景要因（7領域別にみた結果）

前述したとおり、先行研究で用いた質問紙は、施設利用者の生活ニーズの調査項目を、生活面を中心とする7領域から設定した。7領域とは、「生活基盤」「自分の身体・健康」「日常生活」「コミュニケーションと意思決定」「人・社会との関係」「参加・活動」「希望・要望」である。

以下、表5で整理したカテゴリ及びサブカテゴリに注目しながら、自由記述の分析結果を7領域ごとに分けて述べる。

生活ニーズのサブグループは『 』、自由記述の分類結果であるカテゴリ・サブカテゴリは「 」、巻末資料に示した自由記述の記述内容は< >で示す。

## 1) 領域「生活基盤」

領域「生活基盤」は、サブグループ『居室選択の自由』『住環境』『プライバシー保護』『収入』から構成される。先行研究では平均値の高いニーズの特徴から、領域「生活基盤」のニーズを、【人権の基盤】となるニーズであると整理した<sup>注1)</sup>。また、自由記述結果において、「生活基盤」は、7領域中で最も記述数が多かった。

以下、結果と考察を、①居室選択の自由、②住環境とプライバシー保護、③収入の面から述べる。

### ① 居室選択の自由

『居室選択の自由』では、まず居室人数について、「個室希望」と「複数人部屋希望」の2つの意見があった。「個室希望」の理由は<プライバシー確保><同室者への不満>など、「複数人部屋希望」の理由は<個室は淋しい><同室者がよければよい>などである。

次に、「構造的な問題」の意見として多かったのは<スペースが狭い>である。また、居室選択の自由に関する現状として、「居室選択できない」の意見があった。「居室選択できない」は、居室を「選べない」ことに対する意見で、<決定するのは職員である><利用者の意見を取り入れてほしい><契約書上は他人数部屋に代わっても異議が言えない>などである。

さらに、居室の環境整備に関する意見として「規則による制限」「自分に適した環境整備が必要」「整備方法の制限」があった。「規則による制限」は<画鋲を使用できない><鍵がかけられない>など、「自分に適した環境整備が必要」は<家具類や装飾を自分で選択したものを使いたい><障害に合った環境整備の自由は必要>などである。「整備方法の制限」は<職員が忙しそうでなかなか用事を頼みづらい><同室者がいるため照明や空調を自分の好みで使えない>などである。一方、肯定的意見では、「個室使用に対する満足」「現状に妥協し満足」などがあった。満足できている利用者は、比較的自由的な環境で生活していること、自分なりの工夫を施すことで納得して生活していることがうかがえた。

以上は、多様な個別的ニーズがあることを示唆している。希望する居室の選択や同室者の決定は、個人の意思・生活スタイル・障害特性など、利用者側の様々な要因が反映されるべき決定事項である。しかし、居室選択における決定の背景要因は本人の状況だけではなく、施設の介護方針や物理的環境・建物構造など、施設側の体制とも無関係ではない。また、居室選択や居室の環境整備に関するニーズは、他利用者との関係性や、職員の支援体制などの人的環境の要因にも影響を受けている。さらに、自分に適した環境に対する生活ニーズは、施設の物理的環境や方針・規則などの背景要因との関連が高いと言える。このように、居室選択や居室の環境整備に関する背景要因は多様であるが、利用者の要望を

取り入れた選択方法や規則の見直しなど、改善可能な課題もあると思われる。

## ② 住環境とプライバシー保護

『住環境』は、「食環境」「排泄環境」「睡眠環境」のカテゴリで整理できた。それぞれ、＜食べる場所が狭い＞＜トイレの数が少ない＞＜音が聞こえる＞など、「構造的な問題」に起因する記述があった。また、「自分に適した環境」「設備の改善」「睡眠の妨げになる要因」など、住環境改善に対する要望が記述されていた。

『プライバシー保護』については、「プライバシー保護環境」として＜話し声がうるさい＞＜一人になる場所がほしい＞、「プライバシー保護の徹底」があった。また、異性介助を受けないなどの性的プライバシー保護に関する記述は3つのカテゴリで整理できた。1つは「異性介助の改善」であり、＜異性介助に反対、同性介助が良い＞という意見である。2つは、「女性職員による異性介助がよい」とする男性の意見で、＜丁寧、安心感がある＞という理由からである。3つめは、「異性介助の現状を肯定」する意見であり、＜抵抗ない、慣れた＞＜仕方ない＞などの理由であった。

『住環境』『プライバシー保護』は、日々の生活のベースとなるニーズである。これに関する主観的ニーズの状況として、「女性職員による異性介助がよい」以外は、本人の個別的理由によりニーズが判断されているというよりは、施設の外形的な状況によりニーズが発生、ニーズの判断が行われていると思われる。

## ③ 収入

『収入』について、先行研究によるニーズ平均値は2.67であり、全体的には高くなかった。しかし、自由記述個数は多く、「収入不足」「工夫している」「制度の改善を希望」「将来が不安」などのカテゴリに分類された。中でも「収入不足」は、＜利用料が高い＞＜生活費が足りない＞などが記述されている。

2007年に療護施設自治会全国ネットワークが行った過去の調査（以下、「2007年調査」とする）<sup>注2)</sup>によれば、「1ヶ月間で自由に使えるお金」の範囲は、0円～100,000円の範囲で開きがあった。障害者自立支援法による自己負担額について、「旧制度である支援費制度での個人負担金より増えた」と回答した者は65.8%であった。「支援費の個人負担金より増えた」と回答した者の増額金は、5,000円以内～90,000円の範囲でばらつきがあった。多い順では、①15001円～20000円：37.5%、②25001円～30000円：13.1%、③20001円～25000円：12.1%であった。さらに、障害者自立支援法による「定率1割負担」と「実費負担（光熱水費、食費負担）」の総額が生活に影響を及ぼしているかどうかについては、「生活が苦しくなった」が66.5%であり、約7割を占めていた。

過去調査を踏まえ考察すると、収入に関する主観的ニーズは、個人差による要因が大きいと思われる。また、制度そのものが私生活に影響を及ぼし、将来への不安要因にもつながっていると思われる。

## 2) 領域「自分の身体・健康」

領域「自分の身体・健康」は、サブグループ『身体・健康の維持改善』『身体・健康のための運動や訓練』『自分にあった食事』『医療的ケア』『医療機関選択の自由』から構成される。先行研究では、本領域のニーズを、【生の継続】のニーズと整理した<sup>注1)</sup>。

以下、①身体・健康の維持改善と、身体・健康のための運動や訓練、②自分にあった食事、③医療的ケアと医療機関選択の自由の面から述べる。

### ① 身体・健康の維持改善と、身体・健康のための運動や訓練

『身体・健康の維持改善』では、「職員体制」「歯科受診体制」「健康の維持・改善のための方法」「健康の維持・改善の気持ち」「現状に満足」のカテゴリに分類された。「職員体制」の内容は、相談体制や看護師不足といった「医療体制が不十分」と、定期的なりハビリや運動を望む「訓練体制が不十分」であった。「健康の維持・改善のための方法」では、<歯をもう少し磨いてほしい><シーツのしわをのばしてほしい>など、職員の細かな配慮を希望する記述があった。

『身体・健康のための運動や訓練』では、「専門家による機能訓練」「機能訓練の時間数増」「自分に適した方法」「今はないが希望する内容」「やりたくない」「やりたくてもできない」のカテゴリに分類された。それぞれ少数意見ではあるが、「自分に適した方法」として<毎日実施する必要はない><自分の出来る方法でやりたい>、「今はないが希望する内容」として<マッサージをうけたい><スポーツ的身体運動がしたい><軽いストレッチでよい><楽しくやりたい><外に出て体を動かしたい>などが記述されていた。これらは、個別のニーズに基づく個別支援を検討する上で、参考になる意見であると思われる。

### ② 自分にあった食事

味・量・種類・調理法への「不満がある」と、選択食や希望食の回数や体調に合わせた「選択肢を増やす」のカテゴリに分類された。2004年に療養施設自治会全国ネットワークが行った過去の調査（以下、「2004年調査」とする）<sup>注3)</sup>によれば、「食事に対する意見集約方法」は、複数の方法で集約されている結果を得ている。アンケート62.7%、食事委員会49.8%、栄養士との懇談46.4%である。また、「献立への利用者の意見反映」の実効に対する評価は77.6%であった。さらに2004年調査によれば、「健康管理と自己決定の関係」について、「健康管理を理由に、本人の意思に関係なく食事の量や内容が制限されることがある」の回答は、62.9%を占めた。<好物の餅が提供されない（全員禁止）>の自由記述があったが、食事は、健康管理や安全面との関連も大きい。

食事は、個人の生活歴から培われた嗜好や価値に大きく影響され、個別的な対応が難しい。食事への意見要望は施設でも配慮ある対応がなされていると思われるが、味や量などは個人差が大きいため、よりニーズとして表出されやすいという特性がある。一方、高

齢化や成人病による減塩食の必要性や、身体活動量の低下による肥満の問題からくるカロリー制限の問題などは、個別支援計画作成時のニーズ決定において、健康管理や安全の側面からも検討される課題となっている。

### ③ 医療的ケアと医療機関選択

本研究の先行研究では、医療的ケアと関連する項目はデータのばらつきが大きく、ニーズに対する個人差が大きいと言える項目の1つであった<sup>注1)</sup>。『医療的ケア』の自由記述は、「通院介助体制」「施設内の医療体制」のカテゴリに分類された。これらは、「身体・健康の維持改善」における自由記述結果として先述した「医療体制が不十分」や、「収入」における自由記述結果として先述した「収入不足」（利用料が高いなど）とも関連するニーズである。「通院介助体制」については、＜通院介助に対する整備が出来ていない＞＜個人的な通院は交通費がかかる＞などの記述があった。

また、『医療機関選択』については、「選択できない」「現状に満足」のカテゴリに分類された。「選択できない」では、＜施設で決められている＞＜協力病院以外は実費で通院しなければならず選択が難しい＞という記述があった。『医療的ケア』『医療機関選択』のニーズは個人差が大きい、収入や施設の体制と関連するニーズといえよう。また、生の継続に関わるニーズであるため、生命の尊厳価値からみて、医療的ケアが必要な人にとっては重要なニーズである。

### 3) 領域「日常生活」

領域「日常生活」は、サブグループ『起き上がり・移乗』『屋内・外の移動』『食事』『排泄』『排泄コントロール』『衣服の選択』『衣服の着脱』『清潔の保持』『身だしなみ』『洗濯・整理整頓』『金銭管理』から構成される。先行研究では、本領域のニーズを、領域「自分の身体・健康」と同じく【生の継続】のニーズと整理した<sup>注1)</sup>。本領域に含まれる調査項目数は24項目と多いが、自由記述数は他領域と比較すると少なかった。

『排泄コントロール』の自由記述は『排泄』とほぼ重なったため、『排泄』の中で整理した。『排泄コントロール』に関するこれ以外の記述は「現状に満足」で、＜自分でコントロールできている。不必要＞であった。

本領域に含まれる『食事』『排泄』『清潔の保持』で共通するカテゴリは、「介助体制」であった。『食事』の「介助体制」では、＜忙しそうで頼みにくい＞＜職員により介助に差がある＞＜使用後のコップをきれいに洗って欲しい＞など。『排泄』では、＜ナースコールを押してから待ち時間が長い＞＜衛生面に注意を払ってほしい＞など。『清潔の保持』では＜人手不足のため、頻度が少ない＞などの自由記述があった。

本領域で最も記述が多かったのは『清潔の保持』であり、記述は、「清潔の保持」「職員体制」「介助方法」のカテゴリに分類された。「清潔の保持」では、洗面で＜きれいに洗っ

で欲しい><タオルのしぼり具合を考えて欲しい>といったケアの内容に対するもの、入浴で<入浴回数を増やしてほしい><夜入浴したい>、耳掃除・爪切りで<危険が伴うとして特別の人しかやらない><爪切りをしてくれる(できる)職員が少ない>などの記述があった。

本領域の自由記述は、介助体制や介助方法に関連した意見・要望が多かった。この領域は、生活上欠かすことのできない基本的なことであり ADL に対する支援とかかわりが深いため、利用者がよりよりケアを要望するのは当然であろう。また、利用者からは、介助体制や介助方法に関連した要望がある一方で、施設側の視点で考えれば、職員の技術格差や体制の問題ばかりではなく、施設の構造上の問題により、介助方法が左右される場合がある。例えば、各フロアに風呂場を設置していない、風呂場が男女共有で1つしかないなどの構造的問題は、利用者の入浴希望回数や入浴時間に対応できる条件が低いと言える。そのため、「日常生活」に関する領域のニーズは、個人の障害の程度や身体状況による個別性、職員の介助体制、施設の物理的環境条件など、多様な背景要因によって表出されるニーズであると思われる。

#### 4) 領域「コミュニケーションと意思決定」

領域「コミュニケーションと意思決定」は、サブグループ『コミュニケーション機器』『パソコン・インターネット・電話の介助』『パソコン・インターネット・電話の使用』『言いたいことが伝わる』『意思決定』から構成される。先行研究では、本領域のニーズを、【サービスの基盤】となるニーズであると整理した<sup>注1)</sup>。

ここでは、①パソコン・インターネット・電話の使用、②言いたいことが伝わる、③意思決定、のサブカテゴリの記述について述べる。

##### ① パソコン・インターネット・電話の使用

『パソコン・インターネット・電話の使用』は、「公衆電話の問題」「電話使用希望」「パソコン使用希望」「インターネット使用希望」「現状に満足」「必要度が低い」のカテゴリに分類された。「公衆電話の問題」は<個人的な会話がまる聞こえである><一人で電話を使用したい>といったプライバシー保護にかかわるニーズが記述された。「電話使用希望」では携帯電話やシルバーフォンなどの機器使用を望む記述や、<職員が忙しいので、かけたい時にかげられない>といった内容が記述された。

「パソコン使用希望」では、「使用したい」については<できればやってみいたい><充分マスターできていない>、「使用環境」については<自由にパソコンを使える環境があればいい>。「インターネット使用希望」では、「使用したい理由」として<施設内で情報を得られないため活用したい><動きに制限があるので、外部と交信できる環境は必要>など、「使用環境の改善」として<インターネット回線の環境が整っていないので使用でき

ない><居室に回線をひき、いつでも使えるようにしてほしい>、「費用の問題」として<お金がかかる>などである。一方、「現状に満足」では、<携帯電話を持っている、連絡が行えている事で満足している>。「必要度が低い」は、<年齢的にも機能的にも使用が困難である、加えて興味が無いため要求が低い>などである。

パソコン・インターネットは「必要度が低い」利用者もいたが、「使用希望」に関する記述が多かった。利用者にとってパソコン関連機器の使用は、情報入手手段や通信手段としてのニーズが高い。日常生活では、思いを職員らに伝えるコミュニケーション手段としての活用や、インターネットショッピングでの買い物手段としての活用など多様に使用されており、利用者の生活の幅を広げている。パソコンを使用している（使用可能な）利用者にとっては、趣味・活動の幅を広げ、広域のコミュニケーションを可能とし、豊かな生活を実現する一つの手段である。しかし、利用者の状態に合った機器の購入や操作するために必要なソフトの購入など、付随する問題がある。これらはどれも特殊な物を使用することになり、経済的にも大きな負担となる。

経済的問題、使用環境が整っていない、使用方法がわからないなどの記述は、パソコン・インターネットを使用不可能な状況にある人がいるということであり、ニーズ充足の困難理由があるといえよう。他方、パソコン・インターネット使用は、使用可能な状況にある人、身体及び社会的理由で使用不可能な人、使用の必要性を求めない人に分けられる。よって、ニーズ表出の程度は、個人の状況や個人を取り巻く環境との関連が高い。

## ② 言いたいことが伝わる

『言いたいことが伝わる』では、「自分の問題」「自分と職員双方の問題」「職員にお願いしたいこと」「満足」のカテゴリに分類された。「自分の問題」では、<口べたなので、むずかしい。職員を傷つけているのではないかと心配><真意がわからないことがある>など。「自分と職員双方の問題」では、<相手の言い方によっては伝え方が異なる><世代間のギャップを認め合う努力>など。「職員にお願いしたいこと」では、<忙しいから、なかなか話を聞いてもらえない><色々な職員がいて理解してもらえない事もある><プライバシーが守られているところでゆっくりと自分の話しをきいてほしい>など。「満足」では、<言ったことは伝わっていると思う>などである。

『言いたいことが伝わる』とは、「自分の言いたいことを相手に理解してもらおう」と「相手の言いたいことを自分が理解できる」の2つから成り、自分と相手の双方向に向けられたニーズである。記述された内容はそれぞれ少数意見であるが、個別のニーズ状況、支援のあり方としての示唆を含んでいるといえよう。

## ③ 意思決定

『意思決定』は、「意思決定は大切」「意思決定は難しい」「どこで生活するか自分で決めたい」「現状を肯定」のカテゴリに分類された。「意思決定は大切」では、<人間として1

番大切><自分のペースにあわせてもらいたい時がある><決めたことを実行できる体制作りをして欲しい>など。「意思決定は難しい」では、<集団生活なので自分だけでは決められないこともある><規則など、施設間格差が大きいのはどうしたらよいか><全部自分で決めるのは大変。相談にもっとのってもらいたい>などである。

意思の疎通や意思決定は、生活の質を左右するばかりでなく、望む人生を歩んでいく上で重要な要因である。これについては、意思決定の尊重に関するニーズと、意思決定を支えるニーズの2つが示唆された。

## 5) 領域「人・社会との関係」

領域「人・社会との関係」は、サブグループ『家族や親戚との交流』『施設内での交流・活動』『施設外での交流・活動』『地域・ボランティアとの交流』『実習生とかかわる』から構成される。ここでは、①施設内での交流・活動、施設外での交流・活動、②地域・ボランティアとの交流の2点について述べる。

### ① 施設内での交流・活動、施設外での交流・活動

『施設内での交流・活動』は、「施設内利用者との交流希望の状況」「交流を促進する条件」のカテゴリに分類された。「施設内利用者との交流希望の状況」を構成するサブカテゴリは、「相手による」「適度な交流」「交流したくない」であった。「交流を促進する条件」を構成するサブカテゴリは、「場所・空間」で<気軽に集まれる場所がほしい><2人になる時間がほしい>、「活動内容」で<日中活動プログラムの数が不足>、「自分の状況」で<周りの利用者のお話についていられない>の記述があった。

『施設外での交流・活動』は、「施設外利用者との交流希望の状況」「交流を促進する条件」「現状に満足」のカテゴリに分類された。「施設外利用者との交流希望の状況」を構成するサブカテゴリは、「機会がない」「交流がない」「交流したくない」であった。「交流を促進する条件」は、場所・機会・交通に関する内容で、<外出機会を増やす必要がある><交流できる場所を設けてほしい>などであった。

本研究では、「人・社会との関係」にかかわるニーズとして、『施設内での交流・活動』『施設外での交流・活動』の調査項目を設定した。交流・活動に対する自由記述は、交流・活動に対するニーズの程度や、現状を反映した記述となっていた。

### ② 地域・ボランティアとの交流

『地域・ボランティアとの交流』は、「地域との交流希望の状況」「地域交流を促進する条件」「ボランティアとの交流希望の状況」「ボランティアがいない理由」のカテゴリに分類された。「地域との交流希望の状況」を構成するサブカテゴリは、「機会が少ない」「機会があればほしい」「交流したくない」「交流できない」である。「ボランティアがいない理由」は、「外的な理由」として<ボランティア活動している人や団体が少ない><ボランティ

アや実習生・外部者の来訪・希望者が少ない>、「内的な理由」として<施設の積極性が欲しい><遠足・運動会・競技など昔はあったが、新体制になりなくなった>などである。

支援費制度以降、施設の収入は措置費という支給金から事業収入に代わり、経営の安定を図るため、コストダウン等の経営努力が求められるようになった。そのコストダウンの一つとして教養娯楽費の削減や、行事を施設内でできる範囲に縮小した施設もある。これらは、ボランティアや地域住民等との交流が減少する結果にもつながっている。交流に関するニーズ充足は、施設の外的・内的要因に影響を受けていることが推測される。

## 6) 領域「参加・活動」

領域「参加・活動」は、サブグループ『日中活動』『就労』『趣味・役割』『旅行・外出』『学習』『自治会・当事者活動』『社会活動』から構成される。

「障害者自立支援法」は2006年4月より順次施行されているが、入所施設の支援は昼間の活動を支援する「日中活動」と住まいの場としての支援である「居住支援」に分かれている。「日中活動」は、「介護給付」の生活介護の中で利用できる創作的活動や生産活動、「訓練等給付」で利用できる自立訓練や就労移行支援などがある。本研究においては、「日中活動」の内容が介護給付であるか訓練等給付であるかは別として、『日中活動』を「施設内」と「施設外」に分けて質問紙を作成した。また、日中活動の場を施設外に設け、作業的な日中活動を行っている施設もあることから、『就労』の調査項目を設定した。ここでは、『日中活動』『就労』『旅行・外出』の3点について述べる。

### ① 日中活動

『日中活動』に対する自由記述は、「施設内」と「施設外」の2つから把握でき、どちらも、「日中活動への参加の意思」と「日中活動への希望内容」のカテゴリに分類できた。

「日中活動への参加の意思」について、施設内への参加に対しては、「基本的には参加したい」で、<体調がよいときは参加したい>など。「参加したくない」は、<自分にあてはまるものがない><活動自体が幼稚である><自分のペースを大事にしたい>など。一方、施設外への参加に対しては、「参加したくない」で、<あまり重要視していない><高齢、身体的状況から無理に交わりたいとは考えていない>であった。施設内・外ともに、参加意思に関する記述は、参加意思に乏しい内容の記述であった。

「日中活動への希望内容」について、施設内の活動に対しては<スポーツ系に参加したい><訓練の充実を図りたい>など。施設外の活動に対しては<他施設の日中活動に参加したい><外出行事を多くしていただきたい>などであった。施設内・外ともに、本人が希望する個別の要望が記されていた。

### ② 就労

『就労』については、「お金はもらわなくていいから働きたい」と「お金はもらうために

働きたい」のカテゴリに分類され、サブカテゴリはどちらも「働きたい」「働くのは考えない」であった。「働きたい」では<働きたい気持ちはある><自分にできるのであれば仕事をしたい>などで、「働くのは考えない」では<働けない><働きたくない>などであった。

旧身体障害者療護施設の利用者は、障害が重度であるため就労が困難な人たちである。しかし、職業的な自立を現実的に求めるかどうかは別として、一部の利用者には就労へのニーズがある。活動や参加を支持する視点から考えれば、就労もその一形態であろう。

### ③ 旅行・外出

『旅行・外出』は、「旅行したい」「困難な状況がある」のカテゴリに分類された。「旅行したい」は、<現状通り、もしくはもっと多く行きたい><外国に行きたい、行きたいところがある><機会を増やしてほしい>など。「困難な状況がある」は、<体力的にむずかしい><排泄介助が必要なので行きづらい><お金がない>などであった。

2007年調査によれば、「障害者自立支援法による自己負担金の徴収以降、生活の中で切りつめたものがあるか」をたずねた結果、切りつめたものが「ある」と回答したのは59.5%であり、約6割を占めた。さらに、切りつめたものが「ある」と回答した者に、その具体的内容について回答を求めた結果、5割以上を占めた回答は、「趣味を控えた」65.0%、「外出や旅行を控えた」61.1%、「新聞、雑誌、書籍の購入を控えた」58.4%、「衣類の購入などを控えた」57.2%である。

また、同調査において、施設と契約する際、施設から説明を受けた「重要事項説明書」に記載されているサービスの種類について回答を求めた結果、計53種類が把握された。50%以上の回答は「理美容費」71.5%、「金銭出納管理代行」50.0%であった。本研究と関連する項目をピックアップすると、「外出の付き添い（個人外出）」22.8%、「クラブ等趣味的活動」19.4%、「買い物の付き添い（個人の付き添い）」17.1%、「協力病院以外の通院」16.1%、「行事食」15.2%、「パソコン」13.1%などである。これらについて、「自分が1ヶ月で支払った利用料金の金額」を、『外出・旅行』に関する項目として「外出の付き添い（個人外出）」についてみると、本項目は利用料金に最も幅があった項目であり、幅は、500円以内～50000円であった。「買い物の付き添い（個人の付き添い）」の幅は、500円以内～20000円であった。

以上の状況を踏まえ、外出が「困難な状況がある」に関するニーズの背景要因として、身体的な問題、経済的な問題、外出支援に対する施設間格差があると思われる。

## 7) 領域「希望・要望」

領域「希望・要望」は、サブグループ『性的欲求・性生活』『実現したいことがある』『活動のための介助』『職員のかかわり方』『施設の相談体制』『地域生活の情報』『施設生活の継続希望』『施設以外での生活希望』から構成される。ここでは、①実現したいこと

がある、②施設の相談体制、③地域生活の情報、④施設生活の継続希望と施設以外での生活希望、の4点について述べる。

### ① 実現したいことがある

『実現したいことがある』については、「1年以内を実現したいことがある」「数年で実現したいことがある」のカテゴリに分類され、それぞれ「地域移行」「身体的なこと」「旅行・外出」「趣味・活動」「社会的なこと」「難しい」のサブカテゴリで構成された。「地域移行」では<地域移行（1人暮らし、グループホーム）>、「身体的なこと」では<病気の進行を少しでもおくらせたい><ADLの向上、維持>など。「旅行・外出」では<旅行に行きたい><外でトイレにすわれるようになったら一泊旅行に行きたい>など。「趣味・活動」では<パソコン、インターネットをしたい><文化祭に出品したい作品がある>など。「社会的なこと」では<自治会長を続けたい><結婚をしたい><1人部屋に移りたい>など。「難しい」では<実現したいと思っても体調が追いつかず実現できない><計画はあるが人手がたりず、今のところ現実できそうにない>などであった。

サブカテゴリの内容が示すように、実現したいことに関する個別のニーズは、身体・精神・社会的に渡る広範囲な内容であった。それらは、個別的・具体的なものである。反面、実現が難しいという記述があり、実現困難な要因が意識されていることを理解できた。

### ② 施設生活の継続希望と、施設以外での生活希望

先行研究では、施設生活の継続希望に対するニーズは約69.0%であった。これは2004年調査で、「地域やグループホームで生活したいと思わない」が60.7%であった結果を施設生活の継続希望ニーズと考えれば、先行研究結果は2004年調査結果よりは高いが、ほぼ類似の結果であると思われる。

本研究の結果である『施設生活の継続希望』に関する自由記述は、施設生活を「積極的理由で継続したい」と「消極的理由で継続したい」の2つのカテゴリに分類された。「積極的理由で継続したい」のは、<今の施設での生活が望ましい><このままずっと施設で生活したい。どこにも行きたくない><自分が生活できる最善の道だと思う><人がいる所がいい><職員と別れたくない>であった。「消極的理由で継続したい」のは、<施設で生活する他ない><家族と暮らしたいがきびしい><年齢の事を考えると、将来が見通せない><介助者確保が難しいので施設生活から抜け出せない><身体的に難しいので、地域生活の自信がない>であった。

『施設以外での生活希望』に関する自由記述は、「グループホームかケアホームで生活したい」「アパートや一軒家などで生活したい」のカテゴリに分類された。「グループホームかケアホームで生活したい」では、「希望する」として<可能であれば暮らしてみたい>など、「見学したい」として<見学してみたい><実際に見てみないと分からない>の記述があった。「アパートや一軒家などで生活したい」では、「希望する」として<将来的に

は自立したい><金銭的に問題なければしたい><今すぐにでも、アパートで生活したい><無理だと思うがアパートや一軒家などで生活したい>などであった。「困難状況がある」の記述は、<思いはあるが、現状を考えると無理だと思っている>などである。

先行研究における「施設生活の継続希望」に対するニーズは約69.0%であった。これは調査方法の限界と現制度内での結果であるという点を踏まえて解釈する必要があると言えるが、本研究における自由記述結果からは、先行研究結果の背景要因を理解することができよう。また、『施設以外での生活希望』は地域移行と関連するニーズであるが、様々な気持ちや時期での記述がみられた。一言に地域移行と言っても、利用者の現況は様々であると思われる。

### ③ 施設の相談体制

『施設の相談体制』に関する要望・意見は、「相談できる施設整備」「相談できない理由がある」のカテゴリに分類された。「相談できる施設整備」では、<一対一で話ができる場><将来的なことを具体的に相談できる場><話を最後まで聞いてくれる人がよい>など。「相談できない理由がある」では、<ケース担当といえど個人の内容を語れる人はいない>などであった。悩み・不安・今後のことを相談できる施設整備に関するニーズ充足の方向性として、自由記述の意見は参考になる。

### ④ 地域生活の情報

『地域生活の情報』に関する要望・意見は、「地域生活の情報がほしい」「情報は必要ない」「政策への期待」のカテゴリに分類された。先行研究において「地域で生活する障害者の生活が分かる機会が必要」に関する平均値は2.8と高くなかった。これも、調査方法の限界と現制度内での結果であるという点を踏まえて解釈する必要があるが、そもそも地域生活の情報入手に対するニーズは、地域生活への関心や必要性があるか否かといった前提条件があつてのニーズである。情報入手の問題は、単に利用者の問題だけではなく、利用者にとって最も身近な職員が地域の情報を得ていない状況も考えられる。また、利用者の情報入手において必要なニーズは、情報の「内容」だけではない。「理解できる方法」でない限り、情報はあつても無いに等しいと同じである。

## VI 結論

本研究は、「身体障害のある施設利用者の生活ニーズ」を把握するために実施した質問紙調査（先行研究）における「自由記述回答」を分析し、統計的データのみでは把握することのできない個別的なニーズや、主観的ニーズの背景要因について把握することを目的とした。

以下、本研究の結論として、下記の2点を挙げる。

1. 「ニーズに対する意見」として記述された自由記述を 45 サブグループ別に整理した結果、自由記述の内容によりカテゴリ・サブカテゴリに分類できた。これより、1つのサブグループ内における自由記述は、①ニーズに対する複数の視点からの記述が得られ、②カテゴリに整理できる一定のまとまりがあったと言える。このことは、ニーズは一人ひとり個別性があること、施設利用者のニーズは共通性もあることを示唆している。
2. 本研究では、「生活基盤」「自分の身体・健康」「日常生活」「コミュニケーションと意思決定」「人・社会との関係」「参加・活動」「希望・要望」の7領域別に自由記述の内容を把握した。本研究結果を、以下の4点から整理する。
  - 1) 自由記述の分析結果より、統計的データのみでは把握することのできない個別的なニーズのあることがわかった。そして、先行研究の質問紙調査結果と同様に、利用者のニーズは個人差があり個別性があるということを確認できた。
  - 2) 個人のニーズは、本人要因によりニーズが発生するのはもちろんだが、本人以外の要因によりニーズが発生したり、本人以外の要因による影響を受けて主観的ニーズが判断・表出される状況のあることが示唆された。
  - 3) 身体障害のある施設利用者の主観的ニーズの背景要因は、本人要因と、本人以外及び本人と環境との相互作用を含む要因から整理できる。
    - ① 本人要因は、本人の心身状況、生活歴、価値観、収入などの個人的要因である。
    - ② 本人以外及び本人と環境との相互作用を含む要因は、多様である。1つは人的環境で、他利用者との関係性や、職員の支援体制及び職員との関係性を含む人的環境である。2つは、施設の物理的環境や物理的な面での構造的問題である。3つは、施設の方針や規則、支援体制などの施設内における内的体制である。4つは、施設の地域環境や地域資源などの施設を取り巻く外的条件である。5つは、個人及び施設と関連する福祉制度である。
  - 4) 本研究の自由記述には、ニーズに対する個人の要望や意見が多数記述されていた。これらは、支援における課題を解決する方向性や、ニーズ充足のための支援を検討する上での示唆を与えるものである。

## VII 研究の限界と今後の課題

本研究の限界について2つ指摘したい。1つは、調査対象者の選定方法についてである。研究協力者は「意思表示が可能な利用者」に限定されており、本調査自体が悉皆調査ではないため、本研究結果を一般化することはできない。2つは、自由記述による分析であるため、自由記述に回答しなかった者もいる。そのため、調査対象者の意見全体を反映しているとはいえない。

研究における今後の課題は、主観的ニーズを個人への聞き取りによって把握し、個人のニーズから出発した支援のあり方を検討することである。

## VIII 謝辞

本研究の実施にあたり調査にご協力いただきました利用者の皆さま、施設長並びに職員  
の皆さま、そして調査実施にご協力くださいました療護施設自治会全国ネットワークの  
方々に深く感謝いたします。

## 注

- 1) 先行研究は、柗崎京子・畠山千春「身体障害のある施設利用者の生活ニーズ」。現在、日本社会福祉学会機関紙『社会福祉学』に投稿中である。
- 2) 療護施設自治会全国ネットワークによる「障害者自立支援法施行1年後の利用者への影響と意見を把握するための2007年調査」は、障害者自立支援法が施行されて1年がたち、①自立支援法による「負担増」がどれくらいか、②負担増によって療護施設利用者の生活はどのように変化したのかなどを把握するために、全国の身体障害者療護施設471ヶ所を対象に行われた調査である（調査対象：1施設5人の利用者。回収率33.2%、有効回収数782。）

療護施設自治会全国ネットワークの連絡先：

〒204-0023 東京都清瀬市竹丘3-1-72 東京都清瀬療護園  
大島由子気付 療護施設自治会全国ネットワーク宛  
TEL 0424-93-3235（施設） FAX 0424-93-3234（施設）  
東京都清瀬療護園 e-mail : h\_yosioka@marimokai.net

- 3) 療護施設自治会全国ネットワークによる「身体障害者療護施設居住者の生活と環境に関する2004年調査」は、支援費制度が導入され利用者の生活や人権は向上したのかを把握するために、全国の身体障害者療護施設440ヶ所を対象に行われた調査である。調査1では入居者自治会の組織率を把握し、調査2・3は、療護施設の生活と環境に関する現状や、利用主体者からみたサービス利用における問題を把握している。（調査2：回収率52.6%。調査3：回収率48.1%、1施設3人の利用者を調査対象とし有効回収数639。）

## 文献

- 齋藤暁子（2008）「高齢者ニーズ生成のプロセス - 介護保険サービス利用者の語りから」  
上野千鶴子・中西正司編『ニーズ中心の福祉社会へー当事者主権の次世代福祉戦略』医学書院, 71-72.
- 白澤政和監修・全国身体障害者施設協議会編（2008）『障害者自立支援法対応版障害者支援施設のケアプラン』全国社会福祉協議会
- 柗崎京子（2010）「介護過程のアセスメントシートの作成ーアセスメント段階における理解を高めるための2つのアセスメントシート」『共栄学園短期大学研究紀要』26, 1-27.
- 療護施設と人権シンポジウム&全国交流集会実行委員会（2004）「身体障害者療護施設居住者の生活と環境に関する2004年調査」（療護施設と人権シンポジウム&全国交流集会実行委員発行）
- 療護施設自治会全国ネットワークによる「障害者自立支援法施行1年後の利用者への影響と意見を把握するための2007年調査」（療護施設と人権シンポジウム&全国交流集会実行委員発行）

資料 45 サブグループにおける自由記述内容

1. 居室選択の自由

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	個室希望	個室化希望	複数人部屋（4人、6人）だから個室が良い	7	21
			個室がない（少ない）	5	
			全室個室化を望む	1	
		複数人部屋による問題	プライバシーを確保したい 4人部屋があること事態が時代錯誤 同室者への不満がある（不穩、無神経） 共同生活をする上での気使いが必要	3 2 2 1	
	複数人部屋を希望	複数人部屋を希望	複数人部屋は同室者がよければよい 2人部屋がいい、全室個室でなくてよい	5 3	16
		個室による問題	個室は寂しい（仲間が欲しい） 個室のため具合が悪くなった時に心配 個室は介護の状況が不透明	6 1 1	
	構造的な問題	構造的な問題	スペースが狭い	11	36
			日光のさす部屋になるとよい	1	
			ベッドではなく床・たみがよい	1	
			環境制御装置使用が困難	1	
建物が古い為、環境を改善する事は難しい			1		
居室選択できない			選べない（管理するのは職員・利用者の希望・意見を取り入れて欲しい） 部屋がえが2年ごとにあり困る 契約書上は他人数部屋に代わっても異議が言えない	5 1 1	
規則による制限	規則による制限	画紙を使用しない、壁に穴を開けてはいけない決まりがある	1		
		鍵がかけられればよい	1		
自分に適した環境整備が必要	自分に適した環境整備が必要	家具類や装飾を自分で選択したのを使いたい	2		
		障害に合った最低限度の環境整備の自由は必要 自分が使いやすくなければ落ち着かない 居室に冷蔵庫が欲しい	1 1 1		
整備方法の制限	整備方法の制限	職員が忙しそうでなかなか用事を頼みづらい	4		
		同室者がいるため、照明や空調を自分の好みで使えない 居室の清掃の時間をもっと設けてほしい	2 1		
肯定	個室使用に対する満足	居室から外（施設の広場）に自由に出入りができるのでいい	1	5	
		個室を利用できているので満足、個室が一番良い	1		
		現状に妥協し満足	1		
		現状にあわせて対応	1		
計				78	78

2. 住環境

要望・意見	食環境	構造的な問題	時間、場所を考えると一ヶ所で食べるしかない	7	25
			食べる場所がせまい 常時、ベッドで食べている	5 1	
		自分に適した環境	静かに食べたい 不適切な環境（まぶしい、花を飾ると花粉が気になる）	7 2	
			意思反映	ゆっくり楽しく食べたい 食事時間に幅を持たせてもらいたい 同席者を選ぶ、一人で食べるの選択肢がほしい	
	排泄環境	構造的な問題	トイレの数が少ない	8	34
			トイレが狭い トイレに窓がほしい 個室（個人）トイレが必要 段差がある	5 3 2 1	
			設備	設備の改善（冷暖房：2、ADL・身体にあった設備：5、故障：2） ウォシュレットがほしい	
	睡眠環境	衛生	消臭に努めて欲しい 衛生面の確保	2 2	
			構造的な問題	うるさい、音・声が聞こえる 他者のトイレ失敗が分かる、守りようがない	10 1
				睡眠の妨げとなる要因	設備（廊下が明るい：1、光電センサによる電源切り替え1） 他人のことが気になる、音に気を使う 精神に問題のある方の入居はふさわしくない
肯定	食環境	現状に満足	2	12	
		現状を肯定	狭いが、介護士とゆっくりコミュニケーションが取れる場所 共同生活なので、環境が整えられないことも是ととらえている		1 2
	排泄環境	現状に満足	居室内ですませているので満足：2、現状でよい：1		3
		現状を肯定	女性にやってほしいけど、人手不足だからむずかしいと思う		1
睡眠環境	個室で満足している	3			
計				87	87

### 3. プライバシー保護

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	プライバシー保護環境		話し声がうるさい(居室、廊下)、テレビ一人になる場所がほしい:1, 個室が良い:3	7	15
			防音整備してほしい	4	
			防音整備してほしい	1	
	プライバシー保護の徹底		申し送りにおける守秘義務 居室で着替えをするときに、のれんはあるが中が廊下から見える	2 1	
要望・意見	異性介助の改善		異性介助に反対、同性介助が良い 女性の立場であれば大事である(男性意見)	9	16
			職員の確保が必要	2	
肯定	異性介助の現状を肯定		丁寧、安心感がある(男性意見)	3	22
			異性介助の抵抗はない、慣れた 異性介助は仕方ないと思っている 誰がしても同じ	11 9 2	
計				53	53

### 4. 収入

要望・意見	収入不足	利用料が高い	受診のタクシー代が高い(タクシー1~2万, リフト2人で2日14万) 利用に対する自己負担が大きい(食事代、居室代等) 有料介護者と外出するのに足りない	3 2 1	19	
		生活費が足りない	私生活にお金をかけられない(交友関係:2, 趣味:3, 服:1) 交通費にかかる(できることもできない)	6 2		
		年金なので	年金生活なので十分ではない	5		
	工夫している	節約		節約している:3, やりくりしている:1 親が援助している	4 2	6
			制度の改善を希望	年金を上げてほしい(支給額) 国・市町村での負担金を増やしてほしい(月の使用料の減額) 障害者の就労を含めた所得補償制度の確立	2 1 1	4
	肯定	将来が不安	現状を肯定	将来自立を目指しているので、その時には足りなそう ぜいたくしなければ足りる3, 「足るを知る」でいい1 子供の頃からお金を管理していないのでわからない	2 4 1	2 5
計				36	36	

### 5. 身体・健康の維持改善

要望・意見	職員体制	医療体制が不十分	体の状態に対する相談体制を整えてほしい 看護師が少ない 歯科医師・STなど専門職と介護職の連携必要	2 1 1	13
		訓練体制が不十分	PTが不在2, PTに定期的にリハビリを受けたい1 職員の体制によっては運動できない日がある 行事の準備期間や年始年末など長期的にリハがない	3 1 1	
	歯科受診体制	専門歯科医がいらない1, 歯科医の往診体制が整っていない1 口腔衛生(職員により保清度が違う1, もっと磨いてほしい1) 下剤の副作用。便が出た日にも下剤をとめてくれない 毎日バイタルチェックをしてほしい 夏だけでも入浴回数を増やしてほしい(週2回→3回に) シーツのしわをのぼしてほしい	4 2 1 1 1 1	6	
	健康の維持・改善のための方法	体力をもうちょっとつけたい あまり体力をつける機会がなくなった リハビリを行っているが体力維持や低下について追いつかない 水分をしっかりとっている 食事・訓練などで抵抗力、健康維持を保っている 自分の健康は自分で守るべき	5 1 1 1 1 1	10	
	肯定	現状に満足	医療はけっこういい1, 常勤の看護師がいる:1 定期的に歯科医の往診を受けている 歯磨き指導などで、維持・予防などが出来ている 体交をやっもらっているから、褥瘡もなくて、満足している	1 1 1 1	5
現状を肯定		今まで歯が生えたことないのでわからない	1		
計				34	34

### 6. 身体・健康のための運動や訓練

要望・意見	専門家による機能訓練	専門の理学療法士によるリハビリを受けたい	6	19	
	機能訓練の時間数増	機能訓練の回数(時間)を増やしてほしい	7		
	自分に適した方法	時間数	毎日実施する必要はない 目的がない人が無理に行う必要はない		2 2
		方法	自分の出来る方法で自分のペースが必要1, 出来る範囲でやりたい1	2	
	今はないが希望する内容		マッサージをうけたい スポーツの身体運動がしたい 軽いストレッチでよい 楽しくやりたい 外に出て体を動かしたい 作業(手芸)をもっとやりたい	2 1 1 1 1 1	7
		やりたくない		3	3
		やりたくてもできない	身体の事情でできない 職員体制、PTがいらないためやれない	4 2	6
計				35	35

自由記述からみた「身体障害のある施設利用者の主観的ニーズ」

7. 自分にあった食事

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	不満がある		味に不満がある	6	20
			量に不満がある	6	
			種類、メニューに不満がある	7	
			調理法に不満がある	1	
要望・意見	選択肢を増やす		選択食・希望食の回数を増やしてほしい、または選びたい	5	8
			体調に合わせて欲しい（発熱時、夏場など）	2	
			好物の餅が提供されない（全員禁止）。個人毎に判断する様、厚労省から通知を出してほしい	1	
肯定	現状に満足		給食委員会での意見を上げていく	1	2
			差し入れ、買い食いで満足している（施設の食事には不満）	1	
計				30	30

8. 医療的ケア

要望・意見	通院介助体制	介助体制の強化	通院介助に対する整備が出来ていない（家族に依存しないで）	4	10
			福祉タクシーではなく、職員に通院介助してほしい	1	
			介助者がいない	1	
			定期的にもっと通いたいなかなか行けない	1	
	施設内の医療体制	医療的ケアの強化	家族が対応すべきだと思う	1	6
			個人的な通院は交通費がかかる	2	
肯定	現状に満足		医療的ケアが介護員もできるように規制緩和通知してほしい	2	6
			看護と介護の連携強化と医療的ケアの制度整備	1	
			人員不足、専門不足でできない	1	
肯定	現状に満足		重度な医療行為は施設では負担が大きいと考える	1	1
			医療処置が必要な人は医療を提供する場に行くべき	1	
			施設で送迎して頂ける	1	
計				17	17

9. 医療機関選択の自由

要望	選択できない		施設で決められている	9	12
			協力病院の所以外は実費で通院しなければならず選択が難しい	2	
			病気や怪我の状態によっては病院を選ぶ必要がある	1	
肯定	現状に満足		近隣の医療機関で十分なケアが得られている	3	4
			現状で充分満足。自由に行って無駄使いはしたくない	1	
計				16	16

10. 起き上がり・移乗

要望・意見	移乗のための体制・設備の確保		設備の改善（全居室リフトを付けて欲しい：1、移動器具：1）	2	4
			筋の緊張が強く異性介助だと無理をかけている。同性介助が必要 床が湿気等で滑りやすくなる為、滑らない様に環境を整える事	1	
	職員体制、職員の技術の確保		介助方法を自分からうまく伝えられず、理解してもらえない	1	5
			介護知識と技術のレベルアップ	1	
肯定	自分で移乗したい		職員の人数で、自分が希望する時間で介助してもらえない	1	3
			職員に気を使う（職員から声をかけてほしい）	2	
			移乗は自分でしたい	2	
計				12	12

11. 屋内・外の移動

要望・意見	介助が必要		電動車イスで自立だが、外での外出には付き添ってもらいたい（食事介助、店内が狭い）	3	7
			状況に応じて介助してほしい（疲れた時：1、移動が遅いので：1）	3	
	外出支援が不十分		1.5ヶ月から2ヶ月に1回、1回あたり1.5時間～2時間、それも10時～14時半に限定。外出支援の拡充を要望しているが明示なし。外出支援を施設サービスとして義務付け、報酬をつけて欲しい	1	
肯定	現状に満足		電動車椅子使用のため問題ない	11	11
計				18	18

12. 食事

要望・意見	介助体制	忙しい	忙しいので頼みにくい	3	12
			希望時に待たなくてよい対応をしてほしい	1	
			合図しても介助してくれない	1	
			職員により介助に差がある	3	
	方法に差がある		「ごはんは右」が徹底されていない	1	4
			ご飯の量など一定でない	1	
後始末		使用後のコップをきれいに洗って欲しい。食後のエプロンを片付ける際こぼさないようにしてほしい	1	1	
		好きな時に、好きなお菓子を食べたい	1		
肯定	現状を肯定		ゆっくり食べられない（ゆっくり食べられない：2、急がす：1）	3	4
			職員は椅子に座ってゆっくり介助してほしい（同時に3,4人はせわしい）	1	
計				17	17

### 13. 排泄

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	介助体制		ナースコールを押してから待ち時間が長い	1	5
			人員の都合などにより希望した時に排泄出来ない事がある	1	
			トイレ前後早く来てほしい	1	
			不快感をあらわにしないでほしい	1	
費用			衛生面に注意を払ってほしい	1	1
			おむつの費用がかかり年金の半分を支出	1	
自分の身体			でにくい時がある。リラックスする薬がほしい	1	2
			膀胱ろうかケテルが抜けた時の緊急対応に不安(緊急時は協力病院でなくとも対応をお願いしても、安心できる返答をくれない)	1	
肯定	現状に満足		ウォッシュレットがついている	8	8
計				16	16

### 14. 排泄コントロール

肯定	現状に満足	自分でコントロール出来ている。不必要	13	13
計			13	13

### 15. 衣服の選択

要望	適切な衣服選択		コーディネートの悪い人がいる、ちゃんと聞いてほしい	1	3
			職員と一緒に見てもらいたい	1	
			風呂上りにパジャマを着て他者と触れ合うのは恥ずかしい	1	
計				3	3

### 16. 衣服の選択着脱

要望・意見	適切な衣服交換		乱暴(雑)な介助者がいる	3	5
			汗かきなので着替えをしたい	1	
			手伝ってほしい時は手伝ってほしい(特に入浴時)	1	
	自分でやりたい			自分ではけるようになりたい	1
入浴の時は、自分でもっときれいにやりたい				1	
計				7	7

### 17. 清潔の保持

要望・意見	清潔の保持	口腔衛生	定期的な口腔ケアチェックをして欲しい	1	17	
			洗面	きれいに洗ってほしい		3
				タオルのしぼりぐあいを考えてほしい		2
				めやにをきれいに取って欲しい		1
				うがいを忘れられる		1
			入浴	入浴回数を増やして欲しい(週3回に:3)		4
	夜入浴したい	1				
	耳掃除・爪切り	耳掃除は危険が伴うとして特別の人しかやらない	2			
		爪切りをしてくれる(できる)職員が少ない	2			
	介助体制			人手不足のため、頻度が少ない	2	4
				職員が急がしそうでたのみづらい	1	
ハブラシが目の前に用意されても、ケア待ちの時間が長い				1		
介助方法			歯磨きの道具が自分で取れる位置にあるといい	1	5	
			職員の技術(技術に差:1, 体が倒れるので入浴方法の工夫:1)	2		
			流れが機械的に感じる時がある	1		
			自分でやりにくいところの手助けが欲しい	1		
計				26	26	

### 18. 身だしなみ

要望・意見	おしゃれ・化粧ができない	化粧	時間がないため、介助人数がたりないため、好きな時にできない	4	10	
			できない(拒否される:1, とんでもないと言う雰囲気:1)	2		
			一緒にやってくれる職員が少ない	1		
	おしゃれ			おしゃれな服があるが、着る機会もなく残念。和服が着たい	1	6
				服にはあまりこだわらないけど、ふつうに好きな服を着たい	1	
				店・美容室の選択肢が少ない=外出支援の充実を図って欲しい	1	
	身だしなみへの配慮			ひげそりをきちんとしてほしい(回数増:1, そり残し:1)	2	6
				しわの多い洗濯物にうんざり	1	
整髪する際は鏡を見ながらやって欲しい(自分でも確認しない)				1		
居室内に鏡が欲しい				1		
				1	16	
計				16		

## 19. 洗濯・整理整頓

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計	
要望・意見	職員が忙しいので頼めない	時間の確保	職員に時間的余裕がないため、細かい要求がしにくい	4	8	
		回数・内容	もっと頻度をふやしてほしい やってほしいことがある（部屋の掃除：1、タンスの整理：2）	1 3		
	整理方法	自分と一緒にかたづけしてほしい。あるものの場所がわかるから職員本位でやらないで欲しい（収納は利用者の意向を聞く等）	1 2	3		
	洗濯物の扱い		ていねいさ（ていねいでない：1、色おちやのび：1） 普段は乾燥機を使用しているが天気の良い日は外に干してほしい 時々人の物が入っている事がある 洗濯たみ職員の休みだと衣類が戻ってこない ときどき洗濯物が行方不明になる	2 1 1 1 1	6	
		洗濯方法	ランドリーと洗濯介助を選べるようにしてほしい 洗濯は全部行っていたらいいが、自分でやってみたい	1 1	2	
		計	19	19		

## 20. 金銭管理

要望・意見	施設で管理してほしい	施設で管理してほしい（盗難防止など）	2	4
	施設管理だが頼めない	施設介護員は忙しいため、あまり頼めない	2	
	自分でできる範囲でやりたい	できれば自分でしたい 介助は必要だが、干渉されたくない 自己管理できるが小遣い帳を付けられない。職員と一緒にやりたい	1 1 1	3
	金銭管理代行費用の廃止	金銭管理代行費用の廃止	1	1
		計	8	8

## 21. コミュニケーション機器

要望・意見	コミュニケーション機器	障害を持つ者にとって、パソコン・インターネットはかなり必要 自分の伝えたいこと、理解してくれない人に使いたい	1 1	2
	使用方法	Yes、Noでしぼっていくのではなく、文字盤でもっと細かい所まで読みとってほしい	1	1
		計	3	3

## 22. パソコン・インターネット・電話の介助

要望	公衆電話の問題	電話番号をおしてもらふ介助が必要	2	4
		公衆電話の設置場所に工夫が必要	1	
		自分がしたいと思った時にすぐ対応してもらえないことがある	1	
	パソコン使用の問題	パソコンを教えてくれる人がいるとよい	6	6
		計	10	10

## 23. パソコン・インターネット・電話の使用

要望・意見	公衆電話の問題		公衆電話の場所を検討してほしい。個人的な会話がまるまる聞こえてしまう 一人で電話したい 話しづらい	1 1 1	3	
		電話使用希望	携帯電話	外出時に何かあった時のために音声で作動する携帯電話がほしい できれば使用したい	1 1	5
			シルバーフォン	自立準備のため、施設で固定電話を引いて、どこかの部屋でシルバーフォンが使えるようにしてほしい	1	
	使用方法		一人で電話したい 職員が忙しいのでかけたい時にかけられない	1 1		
	パソコン使用希望	使用したい	できればやってみたい 講習などを受けていないので充分マスター出来ていない	5 2	11	
		使用環境	自由にパソコンを使える環境があればいい 専用の部屋、もしくは一部の居室で良い	3 1		
	インターネット使用希望	使用したい理由	施設内で情報を得られないため活用したい 動きに制限があるので、外部と交信できる環境は必要 情報をインターネットで得られるため 自分にとってはパソコンやインターネットは今や生活では必需品である	1 1 2 1	14	
			使用環境の改善	インターネット回線の環境が整っていないので使用できない 居室に回線をひき、いつでも使えるようにしてほしい 光ファイバーが地域にまだきていない 個人個人で無線でインターネットをしているが、冬など通信状態が悪い。行政から補助してIT化を推進して欲しい		5 1 1 1
		費用の問題		インターネットをつかうとお金がかかる		1
	肯定	現状に満足	ケイタイ電話を持っている、連絡が行えている事で満足している	13	20	
		必要度が低い	年齢的にも機能的にも使用が困難である、加えて興味が無い為要求が低い	1		
			必要ではない：2、関心がない：1	3		
			パソコン・インターネットの必要度が低い	3		
		計	53	53		

### 24. 言いたいことが伝わる

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	自分の問題		口べたなので、むずかしい。職員を傷つけているのではないか心配	1	4
			話術に乏しい者は苦勞する	1	
			真意がわからないことがある	1	
	耳が遠いので何回も聞き返してやっと理解する	1			
	自分と職員双方の問題		相手の言い方によっては伝え方が異なる	1	4
			世代間のギャップを認め合う努力	1	
			理解しようとするが、年齢・性別・障害の違いで理解できない部分が多い	1	
	伝えたいことが伝わらない時がある	1			
	職員にお願いしたいこと		忙しいから、なかなか話を聞いてもらえない	2	7
色々な職員がいて理解してもらえない事もある			2		
プライバシーが守られているところでゆっくりと自分の話をきいてほしい			1		
もっと最後まで何を言いたいのかを聞いて欲しい			1		
もっと分かりやすく伝えてほしい			1		
言ったことは伝わっていると思う	1				
肯定	満足		自分の意見を理解してもらっている	1	
	現状に妥協満足		できているのでそれ以外はいい。みんなとしゃべらない	1	
計				18	18

### 25. 意思決定

要望・意見	意思決定は大切		人間として1番大切だと思う	1	4	
			自分のことは自分で決めたい	1		
			尊重してほしい	1		
	自分のペースにあわせてもらいたい時がある	1				
	意思決定は難しい		決められない体制がある	決めたことを実行できる体制作りをして欲しい	1	8
				集団生活なので自分だけでは決められないこともある	2	
				団体生活では無理	1	
				全介助なので決められたことが多い	1	
				規則など、施設間格差が大きいのはどうしたらよいか	1	
1人では無理	全部自分で決めるのは大変。相談にもっとのつてもらいたい	3				
どこで生活するか自分で決めたい	実行状況	困難理由	自立するためのステップを踏んで行きたい	1	5	
			自立センターに自立の意思を伝えるがなかなか進まない	1		
			地域移行支援の強化、個別相談支援をして欲しい	1		
現在では選べない	1					
お金が関係してくる	1					
肯定	現状を肯定		集団生活であるので、規則等は必要	1	1	
計				18	18	

### 26. 家族や親戚との交流

要望・意見	家族との交流	もっと希望	もっと家族と交流、面会したい	10	15
			家族から手間がかかり面倒見切れなと言われる。親の葬式や1周忌くらいは施設職員の付き添いで参加できるようにならないか	1	
			お互いに必要な時に会える関係であればよい、ちょうどよい	2	
			施設生活が長いとどう接していいかわからない	1	
			判断に迷う	1	
	友人との交流	友人とは会いたい	1		
肯定	現状に満足		交流している	6	6
肯定	現状に妥協・肯定		現状で仕方ないと思っている	2	4
			家人側の都合でできない	1	
			集団生活であるので、規則等は必要	1	
計				26	

### 27. 施設内での交流・活動

要望・意見	施設内利用者との交流希望の状況	相手による	ある程度、話の合う人がいい	2	14
			仲の良い人とは交流したいが、仲良くなれない利用者もいる	1	
			部分的な交流	2	
			普通に会話程度のつきあいでいい	1	
			一緒に活動する事はあまり好きではないが努力している	1	
	交流したくない	あまり交流したくない	5		
	同室者とうまくいかないことがあったので	1			
	話の合う人があまりいない	1			
	交流を促進する条件	場所・空間	活動内容	みんなで気軽に集まれる場所がほしい	1
2人になる時間がほしい				1	
日中活動プログラムの数が不足している				1	
レクリエーションの日時が合わない(花見、忘年会など)	1				
自分の状況	周りの利用者のお話についていられない	1			
計				19	19

### 28. 施設外での交流・活動

要望・意見	施設外利用者との交流希望の状況	機会が少ない	交流する機会が少ない	3	10
			近くに友人がいないため交流できない	2	
			会う機会がない	2	
	交流がない	入所生活が長いので、施設外には交流がない	1		
	交流したくない	交流したいと思わない	2		
	交流を促進する条件	場所・機会・交通		外出機会を増やす必要がある	2
交流できる場所を設けてほしい				1	
来訪や外出における交通の利便性を図って欲しい				1	
自由に行き来できる環境が整備されていない	1				
肯定	現状に満足		今の交流や活動で満足している	2	2
計				17	17

29. 地域・ボランティアとの交流

カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計	
要望・意見	地域との交流希望の状況	機会が少ない	施設外で交流をする機会が不足している	4	17
		あればしたい	機会があれば地域と交流したい	4	
		交流したくない	交流したいと思わない	3	
		交流できない	体力的にできなくなった	1	
	地域交流を促進する条件	外的な条件	国が目指していく方向ではないか：1、行政指導が必要：1	2	17
		内的な条件	バザー・納涼会などの行事促進 地域の人が施設に来る機会が増えればいい 地域との交流は納涼祭と文化祭の実質2回しかない。施設が本当に地域と付き合う方針を示し、実質も交流が増えるよう地域担当を固定する等が必要と思う	1 1 1	
	ボランティアとの交流希望の状況	もっとしたい	外出ボランティアと外出したい（見つけるのが困難） もっとたくさんの人に来てほしい 女性のボランティアとは交流したい	3 1 1	18
		交流したくない	交流したいと思わない（必要ない） 年を取ったのでしたくない（若い頃はしていた）	3 1	
	ボランティアがいない理由	外的な理由	ボランティア活動している人や団体が少ない ボラセンターに募集はかけているが見つからない ボランティアや実習生・外部者の来訪・希望者が少ない	1 1 2	
		内的な理由	施設の積極性が欲しい 遠足・運動会・競技など昔はあったが、新体制になりなくなった ボランティアの活動がよくわからない	2 1 1	
計			35	35	

30. 実習生とかかわる

要望・意見	実習生とかかわりたい	関わりを持ちたい 実習生が来る機会が少ない 実習生とかかわることは楽しい：1、活気があってよい：1 若い人と関わるのは気持ちがいい 説明したい。時には職員と協力して 女性の実習生とはかかわりたい	7 6 2 1 1 1 1	18
	関わりたくない	交流したいと思わない 関わることにあきてきた はずかしいので、かかわりたくない 気疲れしてしまう 度々ただ人が替わるので名前すら憶えられない。しんどい 遊びできているようなボランティアに来ているような学生がいる	1 1 1 1 1 1 1	
計			24	24

31. 日中活動

要望・意見	施設内の日中活動への参加の意思	基本的には参加したい	体調がよいときは参加したい 活動についていられない。参加する時間を自分で決めたい 苦手な人がいると、参加したくなくなる	2 1 1	4
		参加したくない	自分にあてはまるものがない うとましい：1、重要視していない：1 活動自体が幼稚である 自分のペースを大事にしたい 参加はしない、自由は得てる	4 2 1 1 1	
	施設内の日中活動への希望	希望する内容	スポーツ系に参加したい レクリエーションの時間を増やしてほしい 訓練の充実を図りたい 手芸の日を増やして欲しい ビーズアート等、何かものをつくるもの	1 1 1 1 1	7
		活動時間	活動時間が長い方がよい	2	
	施設外の日中活動への参加の意思	参加したくない	あまり重要視していない 高齢、身体的状況から無理に交わりたいとは考えていない 自信がなくなったので参加したくない 自分を知っているので遠慮したい	2 1 1 1	5
		希望する内容	他施設の日中活動に参加したい 外出行事を多くしていただきたい 外部の日中活動：1、公民館の絵画サークル：1 地域の自治会との交流を図りたい したくともどのようなものがあるかわからない	4 4 2 1 1	
	計			38	38

32. 就労

要望・意見	お金をもらわなくていいから働きたい	働きたい	働きたい気持ちはある 自分にできる仕事があったい	5 4	9
		働くのは考えない	働けない 働きたくない	7 3	
	お金をもらうために働きたい	働きたい	自分にできるのであれば仕事がしたい 働いてお金をもらいたい 働ける環境があれば働きたい	11 8 3	22
		働くのは考えない	働きたくない 働けない あきらめてしまう	2 5 2	
計			50	50	

### 33. 趣味・役割

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	日常生活で、自分の役割をもちたいかどうか	持ちたい	自分の役割を持ちたい	2	4
			何かすすめてくれればやりたいと思う	1	
			社会的な役割を持ってみたい	1	
		わからない	役割自体がうまくつかめない	1	2
	持たたくない	持てば生きがいになるろうが、プレッシャーにもなるろう	1		
	もちたくない	もちたくない	1	2	
	役割もってできない	1			
	現在の役割についての意見	ちょっとしたことにかかわる	1	2	
	自治会活動は、一緒にやろうという人がいない。利用者の若返りが必要。65歳になると基本的に特養へ行くような仕組みにでもできないと若返らない気がする。	1			
	日常生活で、趣味や好きなことをしたいかどうか	趣味がある	趣味がある(手芸、パソコン、絵)	6	10
好きな事をしている			4		
やりたいことがある		音楽をききたい。テープはあるが動作	1	4	
		畑で野菜を作りたい	1		
エッセイになりたい。習道を教えらるるぐらい上達したい	1				
絵を描きたいけどモデルがない	1				
困難な状況がある	困難な状況がある	お金がかかる(皮細工、写真)	1	4	
		将棋をしたが職員が忙しそうなので頼めない	1		
		介助してくれる人がいないのでできない	1		
目が悪くて何かしようという気がおきない	1				
計				28	28

### 34. 旅行・外出

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	旅行したい	旅行したい	現状通り、もしくはもっと多く行きたい	10	18
			外国に行きたい:3, 行きたいところがある:2	5	
			一緒に行きたい人がいる(母:1, 少人数で:1)	2	
			元気な時に行きたい	1	
	機会を増やしてほしい	機会を増やしてほしい	支援費制度になってから旅行がなくなってしまった。近場でもいいから日帰りで旅行したい。	1	2
			機会を増やしてもらいたい	1	
	困難な状況がある	困難な状況がある	体力的にむずかしい	6	15
			排泄介助が必要なので行きづらい(知らない人では恥ずかしい:1)	2	
			お金がない	4	
			介助者の環境が整っていない	2	
医療的ケアのこともあって、付添が得にくい			1		
計				35	35

### 35. 学習

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	学びたいことがある	学びたいことがある	パソコン(インターネット)を学びたい	9	18
			詩の勉強:1, 歌・絵・字を習う:1, 本を読む:1, 英会話:1	4	
			色々挑戦したい	1	
			手芸で出来ることを増やしたい	1	
			在宅のメリット・デメリットの勉強地域移行に向けて	1	
			福祉のことに入ってたくさん知りたい	1	
	やってみたい資格がある	やってみたい資格がある	興味のあることについて学ぶ機会があればいい	1	1
			経理:1, 看護師:1, 語学:1	1	
	資格取得に対する現状、思い	資格取得に対する現状、思い	該当しない(障害、年齢などの要因で)	8	12
			働く為、資格の為だけでなく生涯学習がしたい	1	
学べる時間が欲しい			1		
資格ではなく、興味のある事柄について学んだり、知識を深めたい			1		
学びの場所が近くにない			1		
計				31	31

### 36. 自治会・当事者活動

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	現在やっている	現在やっている	現在、している	6	8
			自分に出来る事は、これからも続けていきたい	1	
			個人的には十分すぎる位活動してきたつもりでいる	1	
	現在やっているが、難しい状況がある	現在やっているが、難しい状況がある	出来る状態の人が居ない為、仕方なく行っている	2	6
			自治会長をしているがづらい	1	
			思いを実行にうつせていない	1	
やりたくない	やりたくない	意見が言いにくい:1, 発言するのが怖い(文句言われぬか):1	2	5	
		やりたくない	5		
作りたい	作りたい	現在いる施設で自治会を作りたい	2	2	
		2			
計				21	21

### 37. 社会活動

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	活動したい(している)	活動したい(している)	活動はした事ないが参加したいという気持ちはある	7	11
			社会に役立つ事に意義を感じてボトルのふた集めに協力している	1	
			年一回都庁に交渉に行ったり日比谷公園のデモ活動に参加している	1	
			交通安全のマスコット作りをし年1回配布している	1	
			盲導犬協会。移植ドナー登録	1	
	活動できない	活動できない	できない(体力的に)	5	6
考えてもみない			1		
計				17	17

38. 性的欲求・性生活

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	性的欲求・性生活に対する個別の回答		自分で処理する時に部屋の鍵が掛けられないので少し不安	1	15
			男性職員が多いので色々話しをしたり解消している	1	
			そういう思いは男性なら誰でもあると思うが、自分はただがまんしている	1	
			自慰行為ができないので、たまにそういうお店に行きたいと思うことがある	1	
			性的要求は有る、好きな異性と何時でも一緒に居られる環境が欲しい	1	
			アイドルのDVDで満足している	1	
			話ができる人となら話してみたい	1	
			女子介護員の排泄のため、これを維持して欲しい	1	
			異性の人と知り合う機会がない	1	
			外出時も男と女を分けなくて欲しい	1	
			職員に好きなひとがいる。食事ぐらい行きたい	1	
			女性棟にくることで、いやがられることがある	1	
			施設生活の中で、どこまで求めればよいか	1	
施設には限界があると思う	1				
施設を出るしかない	1				
答えづらい	答えづらい		3	3	
計			18	18	

39. 実現したいことがある

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計	
要望・意見	1年以内に実現したいことがある	地域移行	地域移行（1人暮らし、グループホーム）	4	4	
		身体的なこと		機能訓練と残存能力維持の為、自分の出来る身の回りの事を続けたい	1	3
				体力をつけること	1	
				もう少しやせたい	1	
		旅行・外出		旅行に行きたい	4	7
				外でトイレにすわれるようになったら一泊旅行に行きたい	1	
				1人で外出	1	
		趣味・活動		遠くに行って（いなか）主人のおはかにまいるたい	1	12
				パソコン、インターネットをしたい	2	
				文化祭に出品したい作品がある	1	
				パズルを完成させたい	1	
				パソコンで文字が打てるようになりたい	1	
	本をかきあげたい。来期までに			1		
	音楽のリストをまとめた			1		
	毎年福祉まつりで販売している。またしたい			1		
	前施設でやっていた。利用者の出席確認（名前を呼ぶ）をしたい			1		
	和太鼓で「よさこいソーラン節」とキーボードでやさしい曲での基礎練習			1		
	写真展開催	1				
	のれん作り（リハビリ作業）、1ヶ月半位が完成目標	1				
	社会的なこと		自治会長を続けたい	1	3	
			結婚をしたい	1		
1人部屋に移りたい			1			
難しい			実現したいと思っても体調が追いつかず実現できない 計画はあるが人手がたりず、今のところ現実できそうにない	3	4	
数年で実現したいことがある	地域移行	地域移行（1人暮らし、グループホーム）	10	10		
	身体的なこと		病気の進行を少しでもおくらせたい（完治）	3	6	
			ADLの向上、維持	2		
			実現したいことというより、まずは健康状態を留意したい	1		
	旅行・外出		海外旅行に行きたい（ヨーロッパ圏）	1	3	
			ドイツ・ニュージーランドに行きたい	1		
	趣味・活動		外出して買い物をしたい	1	3	
			パソコンの文字打ちを覚えて、手紙を書いたり文章を作ったりしていきたい	1		
			障害者の大会でトリスパレーと将棋の部門で優勝したい	1		
	社会的なこと		貯金を増やしたい	1	5	
結婚をしたい			2			
自治会の後継者を作りたい			1			
ピアカウンセラー取得			1			
難しい		仕事がしたい	1	4		
		体調の事もあるので、簡単には考えられない	2			
		やりたいことにはお金がかかる	1			
			職員が業務におわれており、日頃職員との話せる場が少ない	1		
計			64	64		

40. 活動のための介助

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	職員不足の現状がある		したい時にしたいことができない	3	7
			日によって職員の数が違うので、人が少ない時は、やりたいことができないこともある	1	
			頼んだことを忙しいとの理由で断られるが、職員同士で話をしているのを聞くと時間がありそう	1	
			介助職員等は余計な事項に手を貸す時間は無い	1	
			夜勤帯の職員が足りない。細かい事をやってももらえない時がある	1	
	外出介助の支援希望		外出の際ボランティアとして職員も行ってほしい	1	2
	当事者活動への支援希望		外出時、職員が1人(利用者に対し) 必ず付いてほしい	1	
			利用者から立ち上げた活動については職員つかない	1	1
肯定	現状を肯定		生活介護で忙しく、日中活動に対しては職員配置が充分。厚生省は施設職員の増員を考えてほしい	1	3
			最低基準を満たしているとは言え、職員の絶対数が不足している。最低基準を上げて欲しい。	1	
			現在の職員の人員配置では、外食や外出が不可能な場合が多い。例えば、1つの行動をとる場合部分的に介助が必要なので職員数を増やすか、外的支援を利用するしかない(地域ボラ等)	1	
			自分の活動を全て職員にやってもらわなければならないとは思わない	1	2
			手伝ってもらっているだけなので、不足しているとは思わない	1	
計				15	15

41. 職員のかかわり方

要望・意見	職員が忙しい		忙しそうにしているので座ってほしい	1	17	
	仕事への姿勢・態度	言葉遣い		言葉使いに気をつけてほしい(命令口調、優しい言葉がほしい)		5
		公平性		利用者によって態度が変わる(人により平等でない、他の利用者とは差別されていると感じる)		3
		特定の職員		特定の職員に対して改善してほしい		3
		話を聞いてほしい		もう少し職員が話を聞いて欲しい		2
	職員の資質向上を期待	態度		忙しい時に機械的になる(入浴介助時)		1
				仕事が終わってから、何時間もいて夜がうるさい		1
			職員・利用者の差が大きくなったように思う。同じ施設内の人としての暖かみがうすれてきている様に思う	1	6	
			できないことと言うことで解決をあきらめてしまう。長期的にでも何とかしようという意識付けが欲しい。	1		
			個々の職員のスキルに差を感じる	1		
			いそがしい理由を説明して納得させてほしい	1		
			職員の意識改革をする為の話し合いの場を持ちたい	1		
肯定	現状を肯定		第三者委員会が設置され、苦情や相談が言える窓口がある	1	4	
	現状に妥協		極一部は素晴らしい	1		
			改善してほしいが忙しいのもわかる	2		
計				27	27	

42. 施設の相談体制

要望・意見	相談できる施設整備		一対一で話ができる場	1	8
			日常で会話を沢山したい	1	
			ゆっくり時間をとって話しを聞いてほしい	1	
			将来的なことを具体的に相談できる場	1	
			話を最後まで聞いてくれる人がよい	1	
			困っていることを話せる人がよい	1	
			カウンセラー等いるとよい	1	
			地域移行の相談をしているセンターが遠く、おいそれとは行けない。	1	
	相談できない理由がある		施設長がいると言えない	1	3
			ケース担当といえど個人の内容を語れる人はいない	1	
肯定	現状を肯定		相談できる職員はいるが、きちんと相談できていない	1	3
	現状に妥協		自分の事は自分で決めることが大切	1	
			オンブズマンがある	1	
			何かあったとき、親族を頼るので今は心配ない	1	
計				14	14

## 43. 地域生活の情報

	カテゴリ	サブカテゴリ	記述内容	数	小計
要望・意見	地域生活の情報ほしい		これから地域で生活するために必要なこと、もっといろいろ情報が欲しい	5	10
			障害者がどの様に地域で生活しているのか興味がある 情報収集の方法がわからない	4 1	
	情報は必要ない		必要なし：1、以前地域で暮らしていたので必要ない：1	2	4
			自分で考える事である 必要だが、悪い所が見えるようでは悪い印象しか与えない	1 1	
政策への期待		国の対策に期待しかない	1	1	
肯定	現在、かかわりがある		実際地域の障害者とかかわりをもっている	1	2
			現在、交流がある	1	
計				17	17

## 44. 施設生活の継続希望

要望・意見	施設生活を積極的理由で継続したい		今の施設での生活が望ましい	5	11
			このままずっと施設で生活したい。どこにも行きたくない	3	
			自分が生活できる最善の道だと思う	1	
			人がいる所がいい 職員と別れたくない	1 1	
施設生活を消極的理由で継続したい			施設で生活する他ない	3	9
			家族と暮らしたいがきびしい	2	
			年齢の事を考えると、将来が見通せない 介助者確保が難しいので施設生活から抜け出せない	2 1	
			身体的に難しいので、地域生活の自信がない	1	
判断が難しい			なかなか難しい問題であり、簡単には答えられない	3	3
計				23	23

## 45. 施設以外での生活希望

要望・意見	グループホームかケアホームで生活したい	希望する	可能であれば暮らしてみたい 自立センターの職員の人と体験学習中 出来ればケアホームで生活したい	3 1 1	5		
		見学したい	見学してみたい 実際に見てみないと分からない 入りたいかどうか分からないが、見てはみたい	2 2 1		5	
	アパートや一軒家などで生活したい	希望する	将来的には自立したい 金銭的に問題なければしたい 今すぐにも、アパートで生活したい 無理だと思うがアパートや一軒家などで生活したい 呼吸器利用者でも自立したい希望を持っている人がいることを（実質的に）無視しないで、自立支援等を拡充して欲しい。 1人では不安。見てくれる（支援してくれる）人がいれば興味はある	3 2 1 1 1 1	9		
			困難状況がある	思いはあるが、現状を考えると無理だと思っている アパートなどで自立した生活を送りたいが経済的な理由もあり、実現することがかなり難しい 家族の反対にあっていて、話がストップしている		2 1 1	4
				判断が難しい		グループホーム・ケアホームのイメージがうかばない なかなか難しい問題であり、簡単には答えられない	
			計				28